

**トヨタ財団  
2007年度年次報告**

The Toyota Foundation 2007 Annual Report

#### 注記

◎この年次報告書は、2008(平成20)年6月27日の第120回理事会において承認された「平成19(2007)年度事業報告書」に基づき、当財団の2007年度(2007年4月1日～2008年3月31日)の事業内容を取りまとめたものです。

◎本報告書の助成対象一覧はいずれも助成決定時のものであり、決定以降の変更は割愛いたしました。ただし、これまでの助成対象について助成金額の変更があったものについては、会計報告書にそれを記載いたしました。

◎助成対象一覧において、助成番号の下に記載した(継n)はこのプロジェクトがn回目の継続助成であることを示します。

# 目次

理事・監事	4
評議員	5
2007年度を振り返って◎加藤広樹	6
<b>I. ネットワーク形成プログラム</b>	
I-0 ネットワーク形成プログラム 概要と活動結果	12
I-1 アジア隣人ネットワークプログラム 概要と活動結果	13
選考にあたって◎濱下武志	13
I-2 東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP) 概要と活動結果	19
I-3 成果発表助成プログラム 概要と活動結果	22
<b>II. 地域社会プログラム</b>	
II-0 地域社会プログラム 概要と活動結果	26
選考にあたって◎姜尚中	27
II-1 活動助成	30
II-2 成果普及助成	33
II-3 特定課題：離島助成	35
II-4 特定課題：ユース助成	37
<b>III. 研究助成プログラム</b>	
III-0 研究助成プログラム 概要と活動結果	40
III-1 研究助成 選考にあたって◎李成市	42
III-2 特定課題：アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題 選考にあたって◎クリスチャン・ダニエルス	49
III-3 特定課題：助成金が活きるとは 選考にあたって◎石田紀郎	53
III-4 特定課題：江南、嶺・湖南、瀬戸内 選考にあたって◎伊藤亞人	55
<b>IV. 計画助成プログラム</b>	
IV-0 計画助成プログラム 概要と活動結果	60
<b>V. 事業実績</b>	
V-0 事業実績 概要	64
助成金累計表	65
V-1 会計報告	66
1. 貸借対照表	67
2. 正味財産増減計算書	68
3. 財産推移表	69
4. 助成金変更及び返納一覧	69
V-2 事業日誌	70

# 理事・監事

2007年度(2008年3月31日現在)

(理事は五十音順、敬称略)

役職	氏名	現職
会長	豊田達郎	トヨタ自動車株式会社相談役
理事長	遠山敦子	財団法人新国立劇場運営財団理事長
常務理事	加藤広樹	
理事	岩崎正視	トヨタ自動車株式会社顧問
	内海愛子	大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員教授
	姜 尚中	東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授
	末松謙一	株式会社三井住友銀行名誉顧問
	立本成文	人間文化研究機構総合地球環境学研究所所長
	田中耕司	京都大学地域研究統合情報センター教授・センター長
	張富士夫	トヨタ自動車株式会社取締役会長
	豊田章一郎	トヨタ自動車株式会社取締役名誉会長
	藤井宏昭	独立行政法人国際交流基金顧問
	八城政基	株式会社新生銀行シニア・アドバイザー
	吉川弘之	独立行政法人産業技術総合研究所理事長
	龍澤 武	株式会社トランスアート顧問、株式会社平凡社顧問
	平松義夫	公認会計士
監事	松方 康	三井住友海上火災保険株式会社常任顧問

# 評議員

2007年度 (2008年3月31日現在)

(五十音順、敬称略)

氏名	現職
朝岡康二	大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事
生嶋 明	豊田工業大学学長
石澤良昭	上智大学学長
今井 敬	新日本製鐵株式会社相談役名誉会長
大賀典雄	ソニー株式会社相談役
大木島 巖	日野自動車株式会社相談役
奥田 碩	トヨタ自動車株式会社取締役相談役
片岡もとこ	国際日本文化研究センター所長
勝俣恒久	東京電力株式会社取締役社長
加藤延夫	愛知医科大学理事長学長
熊谷直彦	三井物産株式会社特別顧問
佐々木紫郎	トヨタ自動車株式会社顧問
新宮威一	ダイハツ工業株式会社相談役
豊田英二	トヨタ自動車株式会社最高顧問
濱下武志	龍谷大学国際文化学部教授、東京大学名誉教授
松本 清	トヨタ自動車株式会社顧問
山本幸助	社団法人日本商事仲裁協会理事長
渡辺捷昭	トヨタ自動車株式会社取締役社長
和田明広	アイシン精機株式会社相談役

# 2007 年度を振り返って

トヨタ財団常務理事

加藤広樹

2007 年度は、三つの公募プログラムが改編後 2～3 年経過しているため、プログラム趣旨の普及、浸透が大きな課題となった。また、公益法人制度改革を控え公益への貢献、社会との繋がりをプログラム運営に強く打ち出した。

## 【主な事業】

### ■ 公募プログラム

公募プログラムにおいては、上記課題を踏まえて改善を進めた。

#### ① アジア隣人ネットワークプログラム

前年まで応募が少なかった海外への趣旨の普及・浸透を図るために、2007 年度の公募開始前にタイ、インドネシア、マレーシア、韓国において説明会を実施した結果、海外からの応募が増加し、応募総数も大きく増加した。また、ワークショップやシンポジウムを開催して、ネットワークについての理解を深めた。

#### ② 地域社会プログラム

大都市の NPO 支援組織への理解活動や公募案内の発信先拡大などにより、過去最高の応募件数があった。また全都道府県からの応募があり、当初からのネライであった地域分散がほぼ達成できた。

地域社会プログラムは 4 年目に入ったため、これまでの 3 年間の総括をし、次年度以降のプログラム内容に反映することとした。

#### ③ 研究助成プログラム

「くらしといのちの豊かさをもとめて」という基本テーマは間口が広いとため、応募プロジェクトのテーマが多岐にわたった。そのために選考委員長から、フォーカスを絞ることが望ましいとの指摘がなされた。

また、「プログラム評価・モニタ研究会」を実施し、そこでの議論を受けて、モニタリングの標準化を進めるとともに、助成開始前に対象者からのプレゼンテーションを実施し、対象者と財団との間で情報の共有化と信頼関係の醸成を

図った。

## ② 計画助成プログラム

計画助成は7件、約23,000(千円)の助成をしたが、新しいプログラム開発に資するプロジェクトおよび他の財団や機関と共同して行うプロジェクトに助成するというプログラムの趣旨に合致するものが少なく、外部の有識者からの持ち込み案件がほとんどで、財団の主体性を生かすことができなかった。

## ③ 東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP)

このプログラムは国際交流基金と当財団が共同で助成し、マニラのSEASREP財団が運営を担当しているもので、「地域比較共同事業」、「レイサ・マリヤリ・フェローシップ」、「語学研修」、「トレーニング・プログラム」などを主な事業としている。

当財団は2007年度は、「地域比較共同事業」と「トレーニング・プログラム」のアジア・エンポリウムに助成をした。

## ④ 公益法人制度改革への対応

2008年12月から施行される新しい公益法人制度は、公益の増進とガバナンスの強化がポイントである。当財団としてもこれまで以上に社会への貢献をすべく、活動の一層の充実を図る必要がある。

新制度への移行に向けて、関係機関と連携して情報収集するとともに、定款や大きな変更点への対応などの検討を進めた。

## 【今後の課題】

### ① プログラム運営

本年度は、研究助成プログラムにおいて有識者・選考委員・助成対象者からなる、3回にわたる「プログラム評価・モニタ研究会」を開催し、プログラム改善に向けて議論を深めた。

## 2007 年度を振り返って

主な論点としては、

- ① 助成対象者の内発性を重視し、自主性を尊重する中で、助成プロジェクトの成果を高め、社会へ貢献するために財団はどのようなサポートが可能なのか
- ② 助成成果は的確にしかるべき媒体を通して社会に伝え、普及させることが一層の社会貢献につながるのではないか
- ③ 個々の助成プロジェクトの成果のみならず、財団としてはプログラムの成果を社会に伝えることも大切な役割ではないかなどである。

この研究会の議論をふまえて、

- a. プログラムメッセージ力を高める
- b. 三つの公募プログラムの運営の標準化を図る
- c. 成果発表プログラムから社会コミュニケーションプログラムに改編するなどを柱とする 2008 年度のプログラム計画に反映させることとした。

### ② プログラムオフィサーの育成

財団として永続的な課題は、プログラム開発力にある。

プログラムオフィサー (PO) のオンザジョブトレーニングを基本として、適宜研究会、勉強会を開催してきたが、今後は外部研修を取り入れた育成計画に沿って進めていきたい。

また、プログラム運営を標準化することによって、プログラム相互の情報交換、PO の間の意思疎通などをスムーズに行い、情報集積、運営の効率化・高度化を図りたい。

### ③ 新広報誌

地域社会プログラムの広報誌として、また助成対象者相互の情報交換を狙って、2007 年度に新しく『Join 人 (ジョイント)』を発行した。



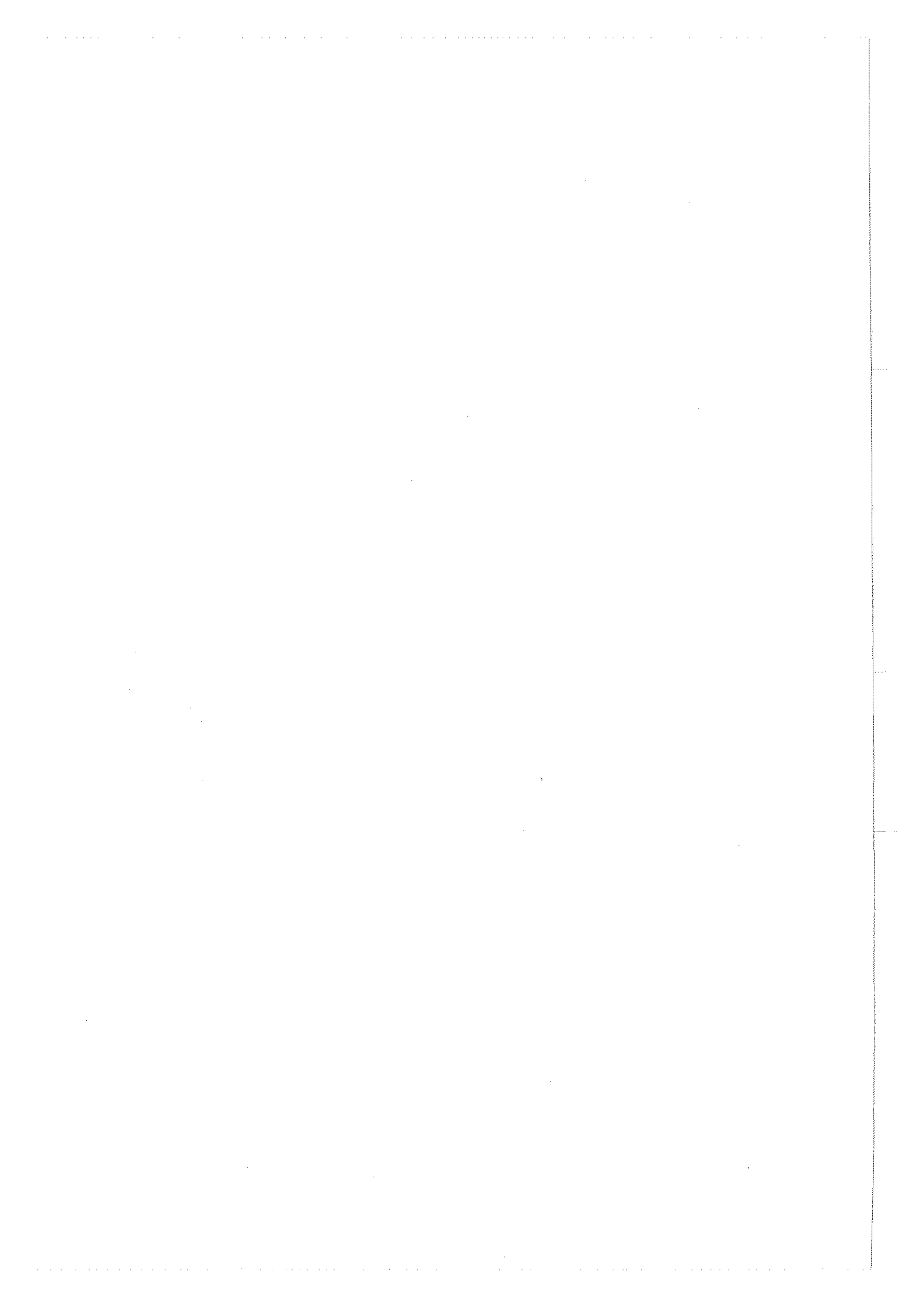
---

助成財団としての社会への発信は、まず何よりも助成プロジェクトにあるが、財団として現在ある広報誌、パンフレットなど情報媒体を整理し、それぞれの役割、目的を明確にし、財団の柱となるオピニオン誌を発行したい。

#### **4 公益法人制度改革への対応**

いよいよ2008年12月から新公益法人制度が施行される。公益の増進がそのポイントであるが、財団としては、プログラムの改善、開発、運営の効率化などによりプログラムの成果を高めて社会に発信することを基本に、公益の増進に寄与したい。

またもうひとつのポイントであるガバナンスの強化については、評議員・監事・理事の役割や権限などが大きく変わるために、的確に対応できるよう検討と準備を進めたい。



# I

## ネットワーク形成プログラム

# ネットワーク形成プログラム

## 概要と活動結果

ネットワーク形成プログラムは「アジア隣人ネットワークプログラム」、「東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP)」、「成果発表助成プログラム (研究助成プログラム、旧東南アジアプログラム関連)」によって構成されている。

「アジア隣人ネットワークプログラム」はネットワーク形成プログラムの重要プログラムと位置づけ、「『人と人とのつながり』がアジアの可能性をひらく」を基本テーマに設定した。多様な個性が交錯しあうアジアに生きる人々が、異なる視点に基づいて、アジアが抱えている様々な課題を明らかにし、それらの課題にいかに取り組むべ

きか、その方法を導き出すことを主眼としている。

「東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP)」は、SEASREP 財団の運営プログラムの方向性やファンドレイジングの強化に関して、さらに協議・検討を行っていくこととなった。

「成果発表助成プログラム」は、研究助成、同特定課題「近代化とくらしの再発見」、旧東南アジアプログラムの三つのカテゴリーから構成されており、いずれも過去に助成を受けた人が対象となっている。

昨年度より助成件数は上回ったが、引き続き助成プロジェクトのフォローアップの充実が課題となった。

# アジア隣人ネットワークプログラム

## 概要と活動結果

「アジア隣人ネットワークプログラム」は、2006年度から『人と人とのつながり』がアジアの可能性をひらく」を基本テーマとしている。しかし、2006年度はテーマの趣旨が十分浸透しきれず、特に海外からの応募件数が少なく、また応募プロジェクトの内容もテーマにそぐわないケースが散見された。

そうした結果を踏まえ、2007年度は募集要項にわかりやすい表現や丁寧な説明を加えるなどの見直しを行った。また、公募開始時期に先立つ2007年3月に海外では初めての公募説明会を、タイ、インドネシア、マレーシア、韓国の4カ国で開催した。説明会では、プログ

ラムの内容や趣旨の説明だけでなく、濱下武志委員長の講演によってネットワーク形成の考え方などについて理解の促進を図った。

その成果として、海外の当該地域からの応募件数・採択件数がともに増加し、プログラムのテーマとその趣旨に沿わない内容のプロジェクトは減少した。

また国内においても、ワークショップやシンポジウムを開催し、助成対象者の事例報告やパネルディスカッションを通して、当プログラムの趣旨と相互活動の理解を深めた。

### 2007年度アジア隣人ネットワークプログラム助成実績

応募件数 (件)	助成件数 (件)	助成金額 (千円)	予算額 (千円)
175	39	120,000	120,000

## 選考にあたって

濱下武志 [選考委員長]

「ネットワーク」という観点から現代アジアをめぐる課題に取り組む本プログラムへの応募プロジェクトは、年を追うに従ってネットワークそのものに対する多様な経験と試みが表明され、これまでの、一つのテーマを他地域に広げる、あるいはつなげるという「多地域間ネッ

トワーク」という傾向を含みながらも、それを越えようとするネットワークの形成や運用について、またテーマに関するネットワーク性に対しても構想が及び始めており、今後のネットワークプログラムがよりいっそうダイナミックに展開する方向がはっきりと看取される。

2007年度の「アジア隣人ネットワーク」プログラムへの応募は合計175件であり、一次選考を経た86件については、全選考委員が全応募プロジェクトを検討する形で、2回にわたる選考委員会を開催して議論を行い、その後数件については事務局に事実確認を行ってもらったうえで、最終的に合計39件を候補として推薦した。以下に本年度の応募プロジェクトについていくつかの特徴を述べ、次年度以降のプログラムのいっそうの深化と進展に向けての参考としたい。

## 1 課題構想のネットワーク性

課題構想は、ネットワークがプロジェクト推進のための手段や方法に集中していた議論から、主題のネットワーク性、あるいは「ネットワーク的テーマ」に取り組むという方向に向かいつつある。このことは、課題に取り組むという本ネットワークプログラムが本来追求すべき段階が展望できるようになってきている、と捉えることができよう。

ネットワークの「テーマ」に関連して、本プログラムの募集要項 Q&A には、以下の説明がある。

Question：どのようなテーマについて課題を明らかにしようとする企画が該当するのでしょうか。事例があると考えやすいのですが。

Answer：次のようなテーマを参考までに一例としてあげますが、あくまでも例示であります。下記のテーマを複合的に組み合わせるなど、ネットワーク形成の特長を生かした独自の視点を盛り込んだ、応募者の斬新なアイデアを期待します。

- 「夫婦」／家族のあり方
- 学校教育のゆくえ
- 伝統文化の継承とルーツをたどるネットワーク構築
- 歴史の再構築
- ヒトの越境と移動が提起する社会ネットワークのあり方
- 技術とくらしの関係
- 環境と農・食
- 社会の周縁に位置すると考えられている人や地域による新たな発想による取り組み
- 情報、メディアの功罪
- アート、芸術の可能性

この説明のなかで「テーマを複合的に組み合わせるなど、ネットワーク形成の特長を生かした独自の視点を盛り込んだ、応募者の斬新なアイデアを期待します」という点を強調したい。とりわけ「テーマを複合的に組み合わせることで主題を構想する」という点に積極的に応え、そこに焦点をあわせようとした意欲的な課題構想が見られた。これはこれまでの応募プロジェクトには必ずしも見られなかった特徴であると思われる。

本年度の応募プロジェクトの中で、第二次選考の対象となったもののうち、この「課題ネットワーク」に関連する以下のような意欲的な課題構想が見られた。

- ① 児童問題と教育など教育に関連する課題
- ② 歴史と記憶・伝統に関連する課題
- ③ 国際的な移民にみられるジェンダーに関連する課題
- ④ 危機や災害・環境や都市問題への対応に関連する課題
- ⑤ 医療・予防医療・高齢化社会に関連する課題
- ⑥ 音楽・美術など芸術や食文化など文化に関連する課題

これらはすべて現代アジアをめぐる課題への多面的な対応を目的としているものの、それぞれの課題自体、それぞれのネットワーク形成によって取り組むべき課題であり、その内容も多岐にわたっている。ただし、「テーマの複合的な組み合わせ」という指摘は、よりいっそう踏み込んだ課題構想におけるネットワーク的な追求を課題としている。すなわち、異なる課題を複合させることによるネットワーク化の可能性とネットワーク的に課題に接近することにより、一見したところ異なる課題を相関した視野に取めようとする課題を構想するということがある。その意味から、本年度の応募プロジェクトの多くから、いっそうの複合的課題構想の可能性を看取することができるのである。

## 2 「萌芽ネットワーク」と「展開ネットワーク」

本年度の選考にあたり、ネットワークの性質によって「萌芽ネットワーク」と「展開ネットワーク」の二つに分けて検討した点も、あらたな議論の深化につながったと考える。

ネットワークの展開については、応募要項に以下のよう二段階に分けて説明されている。

1. 第一段階(萌芽ネットワーク):これまで認識されてこなかった課題を明らかにする段階を「萌芽ネットワーク」と考えます。この段階では、ネットワークの範囲が限定されてもかまいませんが、次の段階への展開を十分意識することが大切です。

2. 第二段階(展開ネットワーク):第一段階の次として、課題の解決に取り組む道筋を明らかにしてゆく段階です。広範囲・多角的な視点を通して、あるいは別の文脈から、課題を再解釈し、さらなる新たな課題を発見する段階を「展開ネットワーク」と考えます。ここでは、多点間のつながり、もしくははかかわりあう場が変化する可能性を意識することが大切です。

ここには、ネットワークを固定的なつながりとしてではなく、展開し進化させる対象として“動的に”展開させようとする意図が示されている。

この二つのネットワークの違いは、**■**において示した「課題構想のネットワーク性」という点と組み合わせで考えた場合、発展段階の違いとしてあるというよりも、課題の特徴に対応した特徴づけであるとも考えられる。すなわち、**■**で言及した六つの課題の事例のうち、①、③、④などは、課題への対応の緊急性や直接性を必要として

いよう。したがって、「萌芽」的なネットワークの対象は、現在直ちに取り組まねばならないものであると考えられるであろう。他方、②、⑤、⑥などの課題は、時間をかけ、長期的な見通しの下で検討する必要がある、「展開ネットワーク」という性格付けがいつそう相応しいと考えられるであろう。さらにとりわけ留意すべきことは、これらの①から⑥にまで及ぶそれぞれの主題は、相互間にどのような組み合わせや複合がありうるか、という点を吟味することが不可欠であるということであろう。この点も、ネットワークの議論を構想することが求められている。

2007年度の応募プロジェクトは、募集要項に積極的に応えながら、それぞれが蓄積してきた貴重な経験に基づいて、ネットワークをさらに豊かにしようとする積極的な意図に満ちていたと考えられる。と同時に、ネットワークという特徴は、「つながる」「つなげる」という側面と同時に、「組み替える」「切り替える」ことも意味しており、運用はより多様に、かつ柔軟に考えられよう。ネットワーク形成が困難であることにどのように対応していくか、という問題にも取り組む必要性を感じたところから、むしろ「組み替え」や「切り替え」を活用しながら、改めてネットワークの特徴付けを試みる必要を感じた次第である。

# アジア隣人ネットワークプログラム

## 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-N-008 インドネシア	ジャワにおける社会資本と知識の伝達について理解し、その実践を試みる エマニュエル・スバングン アロチタ研究所 理事長	2,000,000
D07-N-014	北スマトラ州ニアス島の地域文化と近代化の調和へ向けたネットワーク構築——豊かな精神文化を伴う、震災からの復興・自立に向けて 西田 昌之 オーストラリア国立大学大学院太平洋アジア学研究科 院生	2,800,000
D07-N-027 韓国	絵本でつなぐ「心の架け橋」——アジアと日本の架け橋 松原あけ美 京都教育大学附属京都小学校 絵本セラピスト	2,500,000
D07-N-029	カンボジアの数学教育のためのネットワークの構成 森田 康夫 東北大学大学院理学研究科 教授	3,500,000
D07-N-036	食と口腔に関わる多領域横断草の根ネットワークにより、アジアの口腔衛生環境を改善する——多様なアジアの食文化とその口腔内細菌叢の相違を足がかりとして 中澤 太 北海道医療大学歯学部 教授	2,500,000
D07-N-042	カンボジア王国コンボンスプー州における小学生対象の保健衛生教育プログラム——カンボジアと日本の青年による持続可能な開発教育のモデル模索 花城 可光 レインボー・ブリッジ・プロジェクト 現地駐在スタッフ	2,400,000
D07-N-043 インドネシア	スカブミ県の地域コミュニティをベースとした非木材産物管理のネットワーク——森林村落コミュニティの経済レベル向上のための代替案 ナナ・ルシャナ インドネシア熱帯研究所 (LATIN) コミュニティ・ファシリテーター	1,500,000
D07-N-044 タイ	少数民族文化の保存と振興のためのドキュメンタリー映像制作を通じた東南アジアと東アジアの大陸部における少数民族コミュニティ、学者、非政府開発組織のネットワーク構築 クワンチーワン・プアアデン チェンマイ大学社会研究所 研究員	3,200,000
D07-N-047 香港	アジアにおける中国ビジネス史の研究ネットワーク フイ・タック・リー 香港大学アジア研究所 准教授	4,000,000
D07-N-050 (継2)	中国山西省の環境修復に携わる大学間の交流と NGO による研究共同体の形成——中国山西省の土水環境修復技術に携わる日中の大学と NGO との共同体による地域プロジェクト研究の構築 日高 伸 秋田県立大学 教授	3,300,000
D07-N-052 フィリピン	東南アジアにおける湖沼管理のための地域間ネットワーク形成に向けて エルマ・キナイ バタンガス州立大学 副学長	2,000,000
D07-N-053 フィリピン	東南アジア諸国間の文化理解に向けた陶芸コミュニティのネットワーク構築 アドリアン・メンドーサ プティック財団 陶芸家、芸術教師	3,000,000
D07-N-059	「富士の語りべ」の会による戦争体験証言の記録と体験集の発行 橋口 傑 「富士の語りべ」の会 代表	2,000,000
D07-N-067 韓国	アジア地域における「地域社会の再生」、「まちづくり」の取り組みを通じたコミュニティレベルでの協働事業の推進——東総地域(日本千葉県旭地域)と旌善郡(韓国江原道)のまちづくりの営みを結ぶネットワークの構築 元 基 俊 (財)希望製作所ルーツセンター センター長	3,500,000



助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-N-071 中国	アジアの少子高齢化を支える国際福祉人材養成のための研究者・実務家の人的ネットワークの構築 沈 潔 浦和大学総合福祉学部 教授	3,500,000
D07-N-073	クライシス・デザイン・ネットワーク (CDN) — 現代アジア都市の「潜在的な危機環境」の発見とその克服を目指す協働デザイン・ネットワークの創出 岸 健太 エル・ダブリュー・エル (LWL) 代表	4,200,000
D07-N-074	映像実践と映像作品の新たな可能性を求めて— 中東・東南アジア・日本における映像実践ネットワークの構築を通じて 新井 一寛 大阪市立大学都市文化研究センター PD 研究員	3,800,000
D07-N-077	先住民族の津波伝承交流ネットワークの構築 河村 宏 (特活) 支援技術開発機構 副理事長	4,000,000
D07-N-078	タイ山地民メタ組織「あかつき広場」ネットワークの構築 大澤 清二 大妻女子大学人間生活科学研究科 教授	3,500,000
D07-N-084	現代美術関連文書の翻訳を行う翻訳者によるネットワークの構築、および美術館・教育機関との協力的ネットワークの構築 山本 陽子 翻訳家 (フリーランス)	2,500,000
D07-N-099 (継2)	ローカル・ニーズに基づく多様なジェンダー課題を反映した国際協力の推進— 草の根住民組織支援のための次世代ネットワーク 服部 朋子 (株)ウォーター・リサーチ 生活改善・ジェンダー専門員	3,500,000
D07-N-100	相互自立に基づいた国際協力の実践のための研修プログラムの開発と日タイ百姓間ネットワークづくりの推進 下田 寛典 (特活) 日本国際ボランティアセンター (JVC) タイ事業担当	1,700,000
D07-N-103	東南アジアにおける持続可能な平和構築のためのネットワークづくり 佐伯奈津子 インドネシア民主化支援ネットワーク 事務局長	4,000,000
D07-N-116	民族紛争の続くスリランカにおいて、在来人のシンハラ人と渡来人のタミル人により「バッテリーチャージセンター建設」を協働することによる、コミュニケーションの向上とネットワークの構築 川島 康治 自立のための道具の会 代表理事	3,500,000
D07-N-118 (継2)	ネットワーク形成による健康管理システムの構築—カンボジア・ラオスの「少数民族会議」の形成—フェーズ2:カンボジア・モンドルキリ県少数民族のネットワーク構築による健康状況の把握 宮田 隆 (特活) 歯科医学教育国際支援機構 理事長	2,500,000
D07-N-122	コミュニティ活動によるデング熱媒介蚊防除のネットワーク 谷村 晋 立命館アジア太平洋大学 准教授	4,300,000
D07-N-126	ベトナムの先史考古学研究与先史考古学遺跡の保護活用のための東アジア・東南アジアネットワーク形成プログラム 西村 昌成 NPO 法人 東南アジア埋蔵文化財保護基金 代表	3,500,000
D07-N-135 韓国	アジア結婚移民女性の新しい市民権獲得に向けた結婚移住者グループの協力 アン・ジョン 新しいオルタナティブに向けたアジア地域交流 プログラム・オフィサー	4,500,000
D07-N-137	世界平和に貢献するアジア隣人「相互扶助」ネットワークとしての AMDA 多国籍医師団— 尊敬と信頼に基づいた多様性の共存 菅波 茂 (特活) アムダ (AMDA) 理事長	3,000,000
D07-N-138 マレーシア	東南アジア北部沿岸地域のプラナカン— グローバリゼーション時代の文化ネットワーク ロー・ウェイ・レン 民間研究者	2,500,000
D07-N-140 (継2)	難民に関する国際基準遵守のための双方向のデータベースの設計及び運営 奥村 礼子 大阪大学大学院国際公共政策研究科 院生	1,500,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-N-142	イスラーム圏と共通の未来を拓く拠点構築型学術ネットワーク形成の試み—アジアの、そして世界の隣人 同士としての信頼を醸成するアラブ人学生との相互訪問による実践的コラボレーションを通じて 奥田 敦 慶應義塾大学総合政策学部 教授	3,000,000
D07-N-144 中国	中・日・韓における「東洋の宝石」、トキ ( <i>Nipponia Nippon</i> ) の保全と再繁殖に向けたネットワーク形成 シー・ヨンメイ 浙江大学 准教授	3,000,000
D07-N-152 インドネシア	カリマンタンの藤生産農家と職工のネットワーク—ダヤック・コミュニティにおける持続可能な森林管 理の向上と経済的地位の強化 ヨガ・ソフアル 非木材産品交換プログラム プロジェクト・マネージャー	2,200,000
D07-N-153 イラク	イラク人亡命者の2カ国でのインタビューを通じたイラク王政主義(1921年～1958年)についての記憶 のネットワークの再構築 ハラ・ファッタ 民間研究者	3,700,000
D07-N-155 ヴェトナム	東アジアと東南アジア間での国際結婚—需要、現実、影響と解決のネットワーク チャン・ホン・ヴァン 南部社会科学院 研究員	4,300,000
D07-N-156 中国	東南アジアにおけるドキュメンタリーフィルムのネットワーク イー・スーチョン バマ山岳文化研究所視覚教育部 コーディネーター	3,000,000
D07-N-160 モンゴル	社会慣習の差異と世界市民権の国際化に向けて アルタンツェツェグ・ソドノムツェレン モンゴル国立大学国際交流センター センター長	2,500,000
D07-N-162 イギリス	「積極的非暴力」提唱のためのピデオ・カンファレンス—ヨルダン川西岸、東エルサレム、ガザ地区を結 んで ルシア・ヌセイベ 中東非暴力民主主義(MEND) 所長	4,100,000

## 東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP)

### 概要と活動結果

SEASREP は、東南アジアの人々による東南アジア研究およびそのためのネットワークづくりの促進について支援するプログラムである。1994年にスタートした当該プログラムは、トヨタ財団と国際交流基金が共同で助成を行い、マニラの SEASREP 財団が運営を担当している。現在、「地域比較共同事業」、「ルイサ・マリヤリ・フェロシップ」、「語学研修」、「トレーニングプログラム」などを主な事業としている。

2007年度は「地域比較共同事業」、および「トレーニングプログラム」の「アジア・エンボリウム」に助成した。

「地域比較共同事業」は、東南アジアの研究者が国を

超え、共同して東南アジア諸国の地域比較研究を行うためのプロジェクトや会議、講師招聘などに助成をするものである。2007年度は23件が採択された。

「トレーニングプログラム」の「アジア・エンボリウム」は東南アジアの大学学部生を対象に、東南アジアの歴史・文化・社会について、毎年大学の持ち回りで集中講義を実施し、単位を互換するものである。2007年度は、2008年4月1日～5月8日にタイのチュラロンコン大学で行われ、24名が参加した(国別参加者:タイ12、フィリピン3、インドネシア3、ヴェトナム2、カンボジア2、マレーシア1、ラオス1)。

#### 2007年度 SEASREP 助成実績

	応募件数(件)	助成件数(件)	助成金額(ドル)	予算額(ドル)
地域比較共同事業	56	23	190,000	190,000
トレーニングプログラム		1	32,000	30,000
計	56	24	222,000	220,000

# 東南アジア研究地域交流プログラム (SEASREP)

## 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(ドル)
地域比較共同事業		
D07-EC-01 (継2) フィリピン	フィリピンとタイにおける地方コミュニティのグローバリゼーションの影響とその対応に関する事例研究 マリア・エラ・アティエンサ フィリピン大学政治学科 准教授	20,000
D07-EC-02 ヴェトナム	過去に学び未来を構築—ユネスコ世界遺産(文化遺産)であるミーソン(ヴェトナム中部)、ワットプー(ラオス南部)両遺跡間の歴史的交流に関する研究—インドシナ半島の東岸とメコン川地域間の古代交易ルートについてのフィールドリサーチ チャン・キ・フーン ヴェトナム少数民族文化芸術協会 上席研究員	14,000
D07-EC-03 ヴェトナム	定住化、適応化、同縁化—東南アジアにおけるカム族の比較研究 ホアン・ルオン ハノイ国家人文社会科学大学アジア・太平洋研究センター 人類学部学部長	15,000
D07-EC-04 (継2) ヴェトナム	主観が交錯する場としての学校—カンボジアとヴェトナムの多民族高地社会における教育の批判的エスノグラフィーに関する研究 チュン・フエン・チ 民間研究者	15,000
D07-EC-05 フィリピン	消費製品の著作権侵害—日常生活におけるグローバリゼーション、デジタル著作権侵害と消費 マリア・マンガス フィリピン大学第三世界研究所 研究員・准教授	5,010
D07-EC-06 インドネシア	イスラーム宗教教育グループと市民社会—タイとフィリピンにおけるイスラーム教徒の市民社会への貢献に関する研究 アンディ・フェイスル・バクティ シャリフ・ヒダヤトゥッラー国立イスラーム大学 研究員・教授	12,160
D07-EC-07 ヴェトナム	ハノイ文化交流研究センターでの Sum Chhum Bun 教授(カンボジア王立アカデミー)による「カンボジアのモンドルキリ州に住むムン族のフォークロア」に関する集中講義 ドン・ホン・キ ヴェトナム少数民族文化研究所 所長	2,470
D07-EC-08 (継2) シンガポール	東南アジア高地の丘陵と平原を超えて—昆河鉄道の歴史地理学 タン・ブーン・イー シンガポール国立大学東南アジア研究プログラム 准教授	5,000
D07-EC-09 フィリピン	マレーシアにおける「歴史的戦争」—インドネシアのケースとの比較研究 ロメル・クラミング テ・ラ・サール大学歴史学部 准教授	5,000
D07-EC-10 タイ	イスラームの選挙—フィリピン南部のモロ族とタイ南部のマレー族 スリア・サニワ・ビン・マームッド ヤラ・イスラーム大学 講師・学部長	5,000
D07-EC-11 フィリピン	農村の工業化がコミュニティの変革にもたらしたスピルオーバー効果 リング・ベナルバ フィリピン大学ロスバニョス校農村・都市開発研究所 准教授	5,000
D07-EC-12 (継2) インドネシア	東南アジアにおけるイスラーム・カリグラフィー(さまざまな媒体での) アリ・アクバル 国立コーラン・独立イスラーム美術記念館 研究員	10,000
D07-EC-13 タイ	メコン川盆地の音楽文化におけるピバット伝統—21世紀初期の慣行と現象 マノップ・ウィスティバット シーナカリンウィロート大学芸術学部 准教授	15,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(ドル)
D07-EC-14 フィリピン	フィリピン大学考古学プログラム (ASP) での Truman Simanjuntak 教授 / 博士 (国立考古学研究所) による「インドネシアの初期の歴史」に関する集中講義 ヴィクトル・バス フィリピン大学考古学プログラム 所長	5,000
D07-EC-15 タイ	農業社会における言語の顕著な特色—言語類型論に向けた東南アジアの言語横断的調査 チョルティチャ・バムルーンラス タマサート大学文学部言語学科 学部長	5,000
D07-EC-16 マレーシア	マレーシア国民大学マレーシア国際問題研究所での Aileen Baviera 教授 (フィリピン大学) による「東南アジア安全保障の力学」に関する集中講義 チャム・シュー・ヤン マレーシア国民大学マレーシア国際研究所 教授・所長	4,140
D07-EC-17 インドネシア	インドネシアとマレーシアにおける一夫多妻制「イスラームの言説と女性の実地体験」 ニナ・ヌルミラ バンドゥン国立イスラーム大学 講師・研究員	10,000
D07-EC-18 フィリピン	ゲリラから兵士へ—フィリピンおよび東ティモールにおけるモロ民族解放戦線、フレティリン元ゲリラの国軍編入政策 ロザリー・アルカラ・ハル フィリピン大学ヴィサヤ校 准教授	10,000
D07-EC-19 インドネシア	インドネシア、マレーシアにおける環境と持続可能な開発 アリ・アルウィ タンジュンブラ大学開発研究所 所長	5,000
D07-EC-20 ヴェトナム	東南アジアにおける人間の安全保障の問題 ダオ・ミン・ホン ハノイ国家人文社会科学大学国際関係学部 学部長	5,000
D07-EC-21 フィリピン	東南アジアにおける天女民話—ワークショップ、コロキウム、今に生きる伝統パフォーマンスの開催 アンバロ・アデリナ・ウマリ フィリピン大学国際学研究センター 准教授	2,407
D07-EC-22 フィリピン	サン・カルロス大学での Nussara Wadsorn 博士 (アサンフシオン大学) および Rapin Subaneg 博士 (ラムカムハエン大学) による「英語文学を通じて見たタイ社会」ならびに「女性とタイの近代化体験」に関する集中講義 マリア・ラッセル・ピエラゴ サン・カルロス大学 学部長	5,000
D07-EC-23 インドネシア	スラウェシにおけるオーストロネシア語族 ハリー・トルマン・シマンジュンタク 国立考古学研究所 上席研究員	9,813
<b>トレーニングプログラム</b>		
D07-ER-01 フィリピン	東南アジアの学生によるアジア・エンボリウム講座への参加費用 M. S. I. ジョクノ SEASREP 財団 専務理事	32,000

# I-3

## 成果発表助成プログラム

### 概要と活動結果

成果発表助成プログラムは、研究助成（本体）、旧特定課題「近代化とくらしの再発見」、旧東南アジアプログラム関連に対応した三つのカテゴリーに分けて実施した。研究助成（本体）と旧東南アジアプログラム関連に関しては書籍の出版のみを対象としている。

当プログラムは研究の成果を社会に発信・普及するために重要なものであるが、実際の申請までに至るものが少なく、申請件数は漸減傾向にある。また、旧東南アジ

アプログラム関連では、申請はされても、専門家による査読の結果、採択に至らないケースも目立ってきている。従って、2007年度は採択件数が少なく、結果として予算の大幅な未消化となった。

旧特定課題「近代化とくらしの再発見」は、成果発表助成プログラムとしては2007年度が最終年度にあたり、4件を採択した。

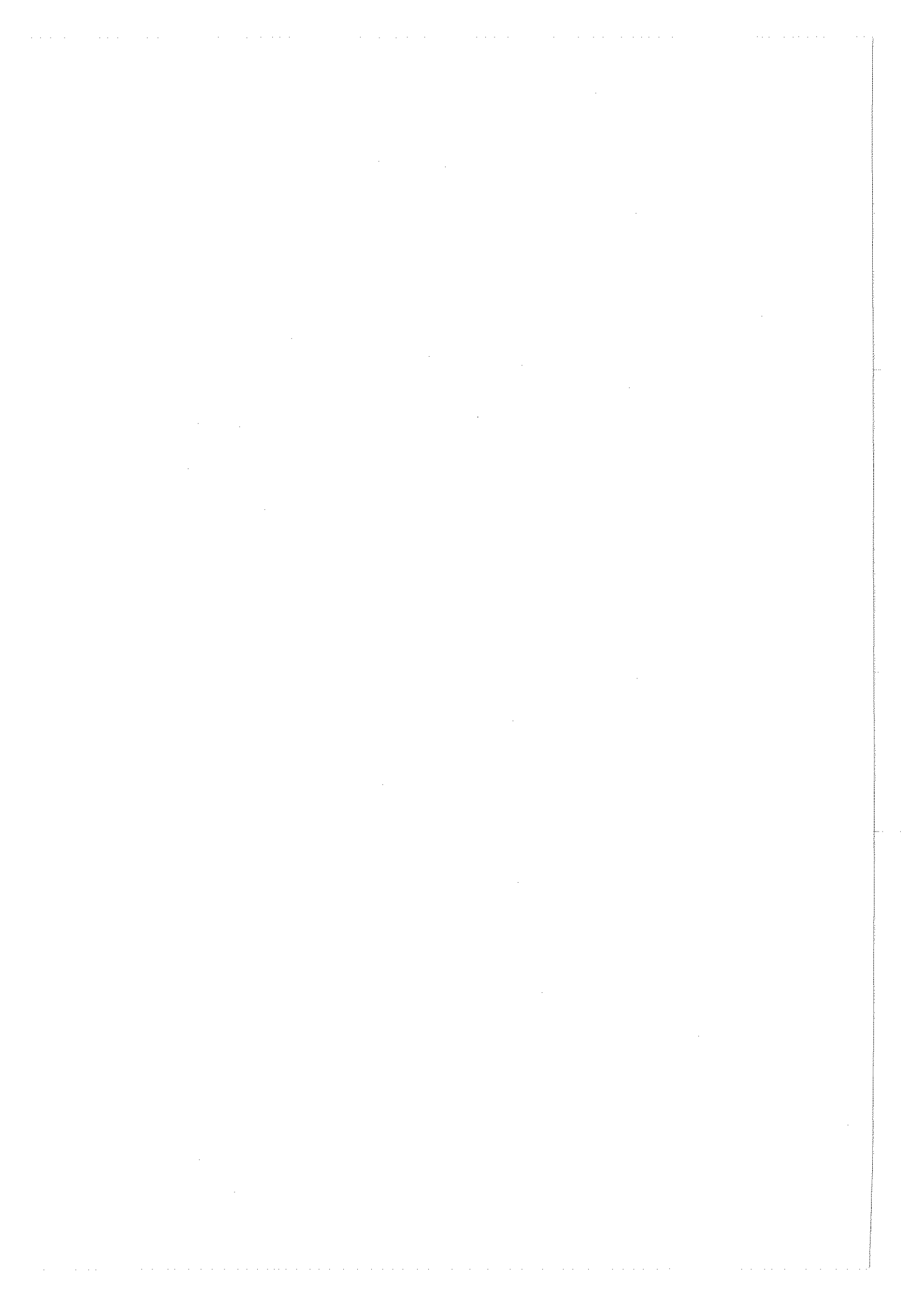
#### ■ 2007年度成果発表助成プログラム助成実績

		助成件数(件)	助成金額(千円)	予算額(千円)
研究助成 プログラム関連	研究助成(本体)	4	5,981	15,000
	旧特定課題 「近代化とくらしの再発見」	4	3,620	5,000
旧東南アジアプログラム関連		1	495	20,000
計		9	10,096	40,000

# 成果発表助成プログラム

## 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
<b>研究助成プログラム</b>		
D07-S-001 (継2) 中国	多民族混住と民族コミュニティの再構築(出版) 温都日娜 内蒙古大学民族学社会学学院 講師	1,290,000
D07-S-002 (継2) 韓国	近世東アジアの中の朝・日・蘭国際関係史(出版) 申東珪 江原大学校人文科学研究所 専任研究員	2,000,000
D07-S-003 (継2)	先進諸国の移民政策——9ヵ国の比較を通じた入管政策の具体的基準の改革提言を中心に統合政策もあわせた学際的研究(出版) 近藤 敦 名城大学 法学部 教授	1,970,000
D07-S-004 スリランカ	南アジアの市民社会におけるマイノリティと開発の問題について市民組織が果たす役割に関する研究——スリランカのタミル人社会を事例として(出版) シャンティ・ラマニー・デ・シルバ・ジャヤラティカ コロンボ大学 助教授	7,125(ドル)
<b>旧特定課題「近代化とくらしの再発見」</b>		
D07-SH-001 (継3) 新潟	金山の町相川の暮らしと鉱山技術とその近代的変容について——金銀山開発によって築かれた相川の食生活の諸相から(展示、講演会、試食会開催) 上林 章造 鉱山町文化史研究会 事務局長	970,000
D07-SH-002 (継3) 沖縄	沖縄県伊江島の阿波根昌鴻資料の調査と活用(映像記録、展示) 久部良和子 阿波根昌鴻資料調査会 代表ほか6名	1,000,000
D07-SH-003 (継2) 静岡	火の見櫓(出版) 塩見 寛 火の見櫓からまちづくりを考える会 代表	1,000,000
D07-SH-004 (継3) 山口	海を渡った長州藩の大砲(報告書出版) 樹下 明紀 幕末長州科学技術史研究会 会長	650,000
<b>旧東南アジアプログラム関連</b>		
D07-SI-001 (継3) ヴェトナム	フエ地方村落のハンノム文書(出版) レ・ヴァン・トゥエン フエ博物館 館長	4,400(ドル)





# III

## 地域社会プログラム

## II-0

# 地域社会プログラム

## 概要と活動結果

地域社会プログラムは3年を経過したが、応募件数が徐々に減少しつつあることから、2007年度は応募件数の増加をめざした。

応募申請書を記述しやすいフォーマットに改訂するとともに、公募に先立って大都市圏のNPO支援組織に理解を促し、また「ユース助成」の募集案内送付先を普通高校や教育委員会にも拡大した。その結果、2007年度は過去最高の649件の応募があった。

県別でみると全都道府県からの応募があり、本プログラムが地方に確実に浸透しつつあるといえるが、いまだ応募の少ない県（鳥取、富山、山梨）もあり課題となった。

また、助成金予算を増額したこともあり、採択件数の増加ができた。

特定課題の「ユース助成」と「離島助成」についてもそれぞれ応募件数・採択件数ともに大幅な増加をみた。

採択されたプロジェクトについては、活動開始前に助成対象者によるプレゼンテーションを初めて行い、選考委員会からの助言を伝えるとともに、助成対象者とトヨタ財団との情報の共有化を図った。

「助成重点区」については、解除後に応募数が減少する傾向にあり、2008年度で重点区が一巡することから、今後そのあり方を検討する必要がある。

### ■2007年度地域社会プログラム助成実績

		応募件数(件)	助成件数(件)	助成金額(千円)	予算額(千円)
活動助成		398	36	44,000	75,000
成果普及助成	活動記録の出版	33	7	6,800	
	広域ネットワーク	74	11	24,200	
(特定課題) 離島助成		86	16	15,000	15,000
(特定課題) ユース助成		58	20	10,000	10,000
計		649	90	100,000	100,000

# 選考にあたって

姜尚中 [選考委員長]

## 1 はじめに

地域社会プログラムは、2年間の試行期間を経て本年度は四年度目となり、本格的なプログラムとして立ち上がっている。プログラムの狙いは、『くらしといのち』を尊重し、地域の個性を活かした地域社会の活性化に資する活動を支援することにある。

このねらいに基づいて、当プログラムでは、三つの点に工夫をこらしている。第一に、応募・採択件数の分布を大都市に特化させず、可能な限り地域分散型に切り替える、第二に採択件数を増やし、多くの地域の取り組みのニーズに応える、第三に、助成金額が少なくても、それを効率的かつ選別的に活用できるような応募案件を選考する、というもので、この基本姿勢は、プログラム開始以来変わらない。

こうした基本姿勢のもとに、以下の選考基準を重視した。①地域社会活性化の触媒的な役割が認められる、②資源の有効活用がはかられている、③非営利性と公開性が確保されている、④実験的な試みであるものは取り上げる、そして⑤社会への情報発信の工夫がうかがえる、である。

なお、昨年度より、従来の「地域社会プログラム(以下、「本体」とする)」の中に、「より緊要な支援を必要とする地域への重点的な支援」を行う目的で、「助成重点区」を設定している。

また、『離島』(北海道、本州、四国、九州以外の島)への支援を目的とした「離島助成」、および「地域社会活動における若者(高校生)による参加」を促す「ユース助成」を、「特定課題」として、昨年度より開始している。

## 2 応募の状況

本年度の応募件数は、総数で649件であった。内訳は、「本体」505件(うち「助成重点区」からの応募は130件)、

「離島助成」86件、「ユース助成」58件である。

応募件数については、昨年度との比較でいうと、いずれの助成プログラムも大幅な増加が認められている。応募用紙の見直し、大都市圏の中間支援組織を直接訪問する等案内方法の見直しの効果があらわれたのではないかなと思われる。

応募件数の地域的な分布状況を見ると、応募は全都道府県にまたがっている。「地域社会プログラム」開始当初の目標として掲げた、「地域分散型」が、昨年度同様達成されている。また、昨年度大幅に減少した大都市圏(東京、千葉、神奈川、埼玉)、「助成重点地域(九州、四国)」について、いずれも応募件数の増加が確認された。

一方で、プログラムを実施した4年間の累計をみると、鳥取、富山、山梨においては、応募件数が極端に少ない結果となっている。いずれも、応募案件の発掘については、次年度以降の検討が必要と思われる。

また、組織形態についてみると、任意団体からの応募件数の割合が、全体の52%に達しており、活動年数も5年以内の団体が全体の6割となっている。地域で、ゆるやかな連携をとりつつ活動している団体(特定の事務所を持たない)、もしくは複数のNPO団体が共同でたちあげた任意団体からの応募が増えていると考えられる。

なお、応募テーマをみる限りにおいては、「環境」「子育て」「障害者・高齢者支援」「伝統文化の保存」「まちづくり」等々、非常に多岐にわたっている。日本社会が抱える様々な課題が、地域社会の現場でも深刻化していることのアラわれではないか。特に本年度は、「過疎地」あるいは「限界集落」と考えられる地域での取り組みに関する応募が多かったように思われる。より深刻な形で、課題が顕在化しているようである。

さて、「離島助成」については、「地域資源の発掘・活用」を目的としたプロジェクトの応募が増加している。また、昨年度は「次世代の育成」を目的としたプロジェクトの応募が一件もなかったが、今年はある。

なお、「ユース助成」への応募の多くは、「交流」「地域資源の発掘、活用」を目的としたプロジェクトが多かった。まずは、「交流」からスタートすることで、地域社会の活性化を図ろう、との強い意志のあらわれかもしれない。また、「地域資源の発掘、活用」の多くは、「小さな仕事づくり」を目的としたプロジェクトであった。若い人たちからの、「地域社会の中で頑張っていこう」というメッセージなのではないか。

### ③ 選考の過程と採択案件の特徴

採択された案件数は、54件(本体)、16件(離島)、20件(ユース)となっており、採択率は、それぞれ11%、19%、34%であった。先に述べたように、応募件数は昨年度に較べていずれの助成プログラムについても大幅に増えており、それに対応して採択件数も増やし、適正な採択率の確保に努めた。

グラントの額が少なくても、財団がサポートしているという象徴的な意味をもたせることは、きわめて重要であり、今後もこの方針を維持し、適正な採択率の確保に尽力したい。

本年度の採択案件のうち、本体に関しては二つの点を指摘しておきたい。

第一に、活動の動機づけや目的、その態様などの点で違いが際だつようになり、ほぼ三つのカテゴリーに分類することができるようになったことである。

第一のカテゴリーは、生態系の保存や地域街並みの保護など、仲間や場所づくりを通じて地域住民のアメニティの向上や「ベターライフ」をめざすような活動である。切迫性や緊急性はないにしても、手堅い日常的な「まちづくり」の試みであり、その成果を期待したい。

第二のカテゴリーは、新たな就業機会や雇用形態の創出など、切実な経済的要因によって突き動かされた活動であり、とくに消失の危機に立たされている「限界集落」からの応募が目を引いた。このカテゴリーのプロジェクトの場合、地域的な特性が顕著なため、他地域への展開が弱いという難点があるが、「限界集落」の存続をめぐる問題はきわめて重要であり、有望なプロジェクトの発掘に努めていきたい。

第三のカテゴリーは、自殺や若者の社会参加、高齢者や障害者の自立支援、難民支援や外国人との共生など、

様々な困難を抱えた人々のサポートを目的とする活動である。これらの活動は、「民によるセーフティ・ネット」構築の試みとして位置づけられ、今後もその地域的な特性を生かした活動に助成していきたい。

以上のような三つのカテゴリーの間に今後、どのような関係が作られていくのか、その動向を注視し、今後の助成のあり方に生かしていく必要がある。

次に指摘しておきたいのは、採択案件数の地域的な分布状況がより改善されていることである。本年度の採択案件数は、応募件数の地域的な分布に対応してほぼ満遍なく都道府県にまたがっており、昨年度大幅に減少した大都市圏でも一定数の採択数が確保され、バランスのとれた地域分散型の分布状況が達成されている。

以上のように採択案件の傾向をみる限り、3年間の実施期間の成果が確実に実りつつあることがうかがえ、次の飛躍に向けてより充実した選別と集中、評価と育成、広報と提言のシステム作りが求められている。

なお、本プログラムの選考は、前年度と同じく次のようなプロセスで進められた。

まず、選考委員会に先立ち、各委員が担当する応募案件から「推薦」と「準推薦」の個別評価を募り、選考委員会の基礎資料とした。

次に、選考委員会を2月の半ば2回にわたって財団会議室で開催した。

選考委員会は、前年通り、選考のねらい、要件、進め方、その手続きなどについて共通の了解を得ることから始まった。

①採択率は10%以上を確保すること。②地域分散型の採択を心掛けること。③応募団体の活動歴と本年度予算規模を参考に、効率的かつリーズナブルな助成額の供与に努めること。④継続案件については、新規案件と横並びで評価すること。⑤「推薦」が多い順から採択を検討し、採択決定の場合には、同時に金額の査定を行うこと。⑥金額の査定は、グラントの象徴的意味も勘案して決定すること、以上である。

### ④ 「提言」の形で社会に広く発信

本年度は、各委員の「評価表」に昨年度ほどのバラツキはみられず、「推薦」と「準推薦」の絞り込み、収斂は比較的順調に進み、選考過程も円滑に行われ、満足のゆく

総意が得られた。選考に要する時間も規定の枠内に収まり、効率的かつ充実した選考結果が得られた。

本プログラムの本体および選考過程は以上の通りであるが、「離島助成」と「ユース助成」については以下の通りである。

「離島助成」は前年度と同じく、限られた生活圏での創意工夫のあり様が具体的なイメージとなってあらわれてくる場合が多く、見方によっては地域活性化の「実験場」といえないこともない。この意味で、その動向は今後の日本全体の地域再生のあり方を占う先駆的な「リトマス紙」として位置づけられる。

本年度の採択案件で注目を引いたのは、日本海側に面した離島の抱える問題である。とりわけ、国境を越えて漂着するゴミの問題などは、離島間の連携や国境を越えた取り組みが必要なテーマであり、今後も、離島の抱える課題に即した助成のあり方を検討していく必要がある。

さらに「ユース助成」は、採択案件数も大幅に増え、そのバラエティに富んだプロジェクトの数々は、将来の

地域社会の「元気度」を計るバロメーターになっている感がある。様々なユニークな試みが、地域の農業、商業、工業高校などから発信されており、これら若い青少年の地域参加への情熱や創意がより実りあるものに結実するよう、今後もより充実した助成に努めたい。なお、「ユース助成」については、各委員からもいろいろな抱負が語られ、「ユース助成」に対する期待の大きさが示された。

本年度は前年度と較べて応募件数が増加し、前年度までの減少傾向に歯止めがかかりつつあることをうかがわせる。その理由として、本プログラムがある程度定着しつつあること、応募用紙の簡素化を推し進め、応募しやすくなったこと、広報・情宣活動に尽力し、プログラムの周知徹底をはかったことなどがあげられる。

本プログラムは3年の実施期間を終了し、今後も質的かつ量的な飛躍・発展が望まれる。そのために、これまでの本プログラムの成果をより包括的かつ体系的にまとめ、「提言」の形で社会に広く発信する課題に取り組んでいきたい。

## 活動助成

### 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-L-037 鳥根	発達障害児支援を通じた「みんなにやさしいまちづくり」プロジェクト 島田 博 発達障害児支援サークル「のびのび」 広報	1,200,000
D07-L-044 滋賀	ホームレス・同予備軍への自立生活・就労支援事業とホンモノコ養殖・放流活動 高橋 英夫 (特活) グローバルヒューマン 理事長	1,500,000
D07-L-047 愛知	赤レンガプロジェクト—春日井(愛知県)・多治見(岐阜県)の県境を跨ぐ旧国鉄トンネル群からなる産業遺産の保存再生活動 村上 真善 旧国鉄トンネル群保存再生委員会 事務局長	1,800,000
D07-L-049 長野	ビジュアル ICT ネットによる難病のこどものユビキタス在宅ケア 小池 健一 (特活) e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット 代表・理事長	1,000,000
D07-L-056 (継2) 東京	日本の伝統的な芸能を通じたコミュニティの構築とまちづくりネットワーク 野村 萬 (特活) ACTJT 理事長	1,700,000
D07-L-063 東京	「健康保険証」を持たない野宿者が密集する地域での無料診療所の運営事業 ルボ・ジャン (特活) 山友会 理事・代表	1,700,000
D07-L-068 高知	引きこもり問題の社会的認知とネットワークの形成 竹中あおい 全国引きこもり KHJ 高知県支部「やいる鳥」の会 会長	350,000
D07-L-071 千葉	「ハッピークローバー」障害者支援ハートプロジェクト・カフェ部門 高井久美子 ハッピークローバー 広報	1,600,000
D07-L-076 (継2) 広島	読者と辿る工業松右衛門の謎解き—8 年に及ぶ調査報告と 196 年ぶりの知見に基づいて 松居 秀子 (特活) 頼まちづくり工房 代表理事	1,000,000
D07-L-077 徳島	「限界集落でも、どっこい、生き残るぞ!」プロジェクト 北山 佳生 (特活) 『どーんと・せーの!!』 理事長	2,000,000
D07-L-078 福岡	街じゅうアート in 北九州 2008 岡野 正敏 (特活) 創を考える会・北九州 理事長	1,000,000
D07-L-080 高知	漢方薬原料薬用植物の導入による栽培化と中山間地の農業復興及び持続的域開発 岡田 稔 高知薬用植物研究会 代表	1,420,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-L-094 岩手	「なんでも屋・おせっかい」を拠点にした「ご近所づきあい」の復活 菅沼 節子 紫波中央駅前コミュニティー・プラザの会 会長	1,200,000
D07-L-096 神奈川県	コリアンな街“かわさき”プロジェクト 李仁夏 (社福)青丘社 理事長	900,000
D07-L-105 (継2) 東京	高度医療の病院における入院児の子育て支援 坂上 和子 (特活)病気の子ども支援ネット遊びのボランティア 理事長	700,000
D07-L-126 千葉	日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス 長澤 成次 「日本語を母語としない親と子どものための進路ガイダンス」実行委員会 代表	480,000
D07-L-142 山形	複合技術による廃棄果樹木を活用した資源循環型デザインの食器開発プロジェクト 鈴木 正芳 くだものうつわ 代表	1,000,000
D07-L-146 福岡	三池港と炭鉱のまちのこれからの100年を考えるまちづくりワークショップとシンポジウム 永吉 守 (特活)大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ 理事	1,000,000
D07-L-149 福岡	「捨て柿」の有効利用による“農の風景”の保全と地域振興プログラム 和仁 宗憲 (特活)みのう地域循環デザインセンター 理事長	1,200,000
D07-L-152 石川	震災土蔵と空き地を活用したコミュニティレストランの整備 萩野紀一郎 (特活)輪島土蔵文化研究会 理事長	1,500,000
D07-L-159 (継2) 東京	蔵再生—地域映像アーカイブの創設 永野 武雄 (特活)映画保存協会 理事長	800,000
D07-L-191 愛知	野宿者(いわゆるホームレス)の就労・自立支援 齋藤 泰 (特活)ひまわり協働会 理事長	1,700,000
D07-L-197 宮城	ミュージカル「あいうえおばさん」公演事業 仁科 篤子 (特活)ミュージズの夢 理事長	1,000,000
D07-L-219 千葉	公共保育を補う効率的な緊急保育モデル事業 桑野 秀男 (特活)アフタースクール 理事長	1,700,000
D07-L-250 山形	過疎化農山村と青少年自立支援施設による産業再生と自立支援のコラボレーション 岩川 耕治 東北青少年自立援助センター 蔵王いこいの里 理事長	1,650,000
D07-L-270 (継3) 宮崎	綾町民による綾町民のための食の安全構築事業 黒木 純一 希少植物を守る会 会長	1,000,000
D07-L-296 兵庫	インフォーマル福祉事業の将来的展開のためのプロジェクト 日笠 昭子 ひょうごん福祉ネット 代表	800,000
D07-L-332 愛知	里山の活性化—桑の新規利用と退職者労働力の結合 藤澤 秀機 (特活)マルベリークラブ中部 代表理事	1,000,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-L-359 (継3) 青森	廃校を活用し、クライングルテンの啓発、スローフードと食育の実践、アート & 工芸スタジオの設置による地域間・世代間交流の場を創るプロジェクト 小山内 誠 (特活) あおもり NPO サポートセンター 副理事長	1,000,000
D07-L-380 滋賀	在住外国人とその子供たちの地域コミュニティ参加を促進する居場所づくり事業 塚本 晃弘 ローイ・サハーイ 東近江 会長	1,300,000
D07-L-391 広島	精神障害当事者とボランティアが協働する「こころの街づくり」事業 勝岡 勝也 (特活) ウイングかべ 理事長	1,700,000
D07-L-421 (継2) 愛媛	「ぎょしょく教育」をもとに漁村と都市の交流促進活動 若林 良和 愛媛大学「ぎょしょく教育」研究推進プロジェクトチーム 代表	1,700,000
D07-L-452 高知	子育て支援と和みの居場所づくりと一品配食サービスによる地域の支えあいプロジェクト 西元 和代 地域の応援隊 和(なごみ) 代表	1,400,000
D07-L-462 青森	農林業残渣を利用した障害者の雇用促進のための地域内連携 金谷 年展 (特活) バイオマス・水素エネルギーネットワーク 理事長	1,000,000
D07-L-470 東京	移動式子ども基地による「まち育」プロジェクト 星野 諭 コドモワカモノまちing(マッチング) 代表理事	1,000,000
D07-L-486 (継2) 鹿児島	ネットカフェ難民等の1ターン支援事業 竹田 寿昭 (特活) かごしま青少年自立センター 理事長	1,000,000



# I-2 成果普及助成

## 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
<b>出版</b>		
D07-L-088 福井	「21世紀の田舎学——遊ぶことと作ること」に関する出版 杉村 和彦 (特活) 森のエネルギーフォーラム 理事長	1,000,000
D07-L-107 三重	「市民がつくった『人財ポケットよっかいち』——団塊の世代を中心とした地域貢献型人材バンクの設立・活動・マネジメント」に関する出版 松井真理子 四日市 NPO セクター会議 議長	1,000,000
D07-L-115 北海道	「世界へ飛んだ 1500 台の車いす——15,000 人の暖かい手」に関する出版 柳生 一白 (特活) 「飛んでけ車いす」の会 代表理事	1,000,000
D07-L-156 北海道	「こどもの劇場が街を変える——こどものための専用劇場 30 年の成功と失敗 (仮称)」に関する出版 岩崎 義純 札幌市こどもの劇場やまびこ座 館長	1,000,000
D07-L-313 東京	「市民によるファンド “ぐらん” が訪いた 100 の物語」に関する出版 樋口 容子 (特活) ローカルアクション・シンクボッツ・まち未来 副理事長	1,000,000
D07-L-345 宮城	「地域における NPO の実践から見る NPO と行政の協働による次世代育成支援」に関する出版 小林 純子 (特活) MIYAGI 子どもネットワーク 代表理事	800,000
D07-L-412 大分	「出会いの磁力——ゆふいん文化・記録映画祭の 10 年」に関する出版 中谷健太郎 ゆふいん文化・記録映画祭実行委員会 顧問 (前総合プロデューサー)	1,000,000
<b>広域</b>		
D07-L-125 (継 2) 神奈川	いつでもどこでも「水俣」——「水俣」の学びを伝える写真展開催と出前資料づくり 田嶋いづみ 「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク 代表・首都圏窓口	1,000,000
D07-L-143 東京	視覚障害者と共に関心するバリアフリー上映の全国普及に向けた活動支援プロジェクト 平塚千穂子 バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ 代表	2,700,000
D07-L-224 長野	山村留学による地域再生プロジェクト 矢口富士郎 (特活) 小谷村山村留学育成会 理事長	1,700,000
D07-L-231 (継 2) 東京	多様なアクターの地域難民支援への参加促進——多文化共生社会の実現による地域社会の活性化をめざして 狩浦 正義 全国難民支援者ネットワーク 代表	3,700,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-L-263 (継2) 大阪	手話による聴覚障害者向け医療相談事例番組制作事業 高田 英一 (特活) シーエス障害者放送統一機構 理事長	1,900,000
D07-L-339 (継3) 埼玉	『いのちを支える地域の電話帳』作成プロジェクト 清水 康之 (特活) 自殺対策支援センター ライフリンク 代表	3,200,000
D07-L-354 北海道	DV被害当事者自立支援広域サポーター養成活動 山崎 菊乃 北海道シェルターネットワーク 事務局長	2,000,000
D07-L-379 (継3) 岩手	北いわてのスローツーリズムが結ぶ、都市と山村の人々の出会いと協働のネットワーク 百成 信夫 (特活) 岩手子ども環境研究所 理事長	1,600,000
D07-L-406 (継2) 和歌山	百姓養成塾の波及にむけた山村ネットワークづくり 春原 麻子 色川「百姓養成塾」をつくる会 事務局	1,900,000
D07-L-409 兵庫	地域のマイノリティを支えるコミュニティラジオ・ネットワーキング 日比野純一 AMARC 日本協議会(世界コミュニティラジオ放送連盟日本協議会) 代表	2,500,000
D07-L-448 岡山	「ふれジョブ(未成年障害者等仕事体験)」事業推進ネットワーク 柴田 潔 ふれジョブネットワーク 代表	2,000,000

# I-3 特定課題：離島助成

## 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
活動		
D07-LI-001 沖縄	「子どもたちにばがー島の文化を伝えよう」プロジェクト 渡久地イチエ 児童文化サークル くにぶん木の会 会長	500,000
D07-LI-004 香川	男木島に古くから自生する日本水仙を移植し、日本有数の水仙郷をつくる活動 濱坂 忠義 男木水仙郷をつくる会 会長	1,100,000
D07-LI-008 山形	日本海東北部の離島を結んだ地域一体型の環境改善活動 金子 博 (特活) パートナーシップオフィス 理事	1,100,000
D07-LI-014 愛媛	しまなみ資源活用プロジェクト 松垣 美香 (特活) 今治 NPO サポートセンター 理事長	1,200,000
D07-LI-015 北海道	レプンアツモリソウ保護プロジェクト 村上 賢治 礼文島自然情報センター 代表	700,000
D07-LI-019 東京	エコツアー型の自転車イベントによる島の復興支援「三宅島エコ・ライド」 北澤 育 三宅島エコ・ライド実行委員会 代表	900,000
D07-LI-029 東京	高校生から繋げる伊豆諸島の輪 穴原航太郎 東京都立大島海洋国際高等学校 生徒代表	900,000
D07-LI-036 沖縄	沖縄・石垣島における赤土流出抑制促進に向けた循環型農業の実験開発 入嵩西正治 石垣・循環型農業研究会 代表	1,000,000
D07-LI-038 東京	三宅島のおばによる金蓮花プロジェクト 杉本 一成 (特活) クリエイトアイランド 理事長	900,000
D07-LI-041 (継3) 鹿児島	黒潮文化の交差点・トカラ列島食文化の発掘と交流伝承プロジェクト 枝口 光彦 (特活) トカラ・インターフェイス 代表理事	1,000,000
D07-LI-051 (継2) 島根	さくらの家から始まる福来茶づくりによる島の特産品づくり 後藤 隆志 (特活) だんだん共同作業所さくらの家 ものづくりプロデューサー	500,000
D07-LI-057 山口	祝島未来航海プロジェクト「一流の離島・地球船祝島丸」 氏本 長一 祝島未来航海プロジェクト実行委員会 委員長	1,100,000

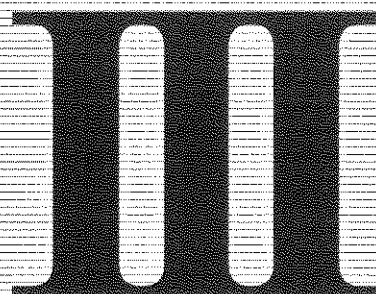
助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-LI-066 鹿児島	空き店舗を活用した「カンモレプラザにおける地域の助け合い」プロジェクト 永戸 祐三 (特活) ワーカーズコープ(奄美地域福祉事務所がじゅまる) 代表理事	1,300,000
D07-LI-067 長崎	人口透析患者(通院介護)支援継続事業緊急プロジェクト 平岡 兵次 (特活) ほほえみ五島 理事長	700,000
D07-LI-077 長崎	漂着物をテーマにした教育プログラムの実施と二島交流 阿比留忠明 東シナ海ビーチコーミング友の会 事務局	1,100,000
D07-LI-079 北海道	離島における地域介護力向上プロジェクト 濱口 孝 (社福) 利尻町社会福祉協議会 会長	1,000,000

# I-4 特定課題：ユース助成

## 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
活動		
D07-LY-002 静岡	南伊豆の工芸品開発と普及——蓮の利用 大野美保子 静岡県立下田南高等学校南伊豆分校「果樹」専攻 高校2年生	500,000
D07-LY-004 長野	ナガノ・マツシロ(大本宮予定松代地下壕群)を高校生ガイドが発信し、集客力大幅アッププロジェクト 和田 将也 長野俊英高等学校郷土研究班 高校2年生	500,000
D07-LY-005 香川	ものづくりの技術で地域に貢献——福祉に役立つものづくり 宮本 大輔 香川県立三豊工業高等学校メカトロ部 高校2年生	500,000
D07-LY-006 沖縄	南風原の100年・平和学習を通しての私たちの大切な町づくり 福 広太郎 はえばる Youth 高校2年生	500,000
D07-LY-009 北海道	ヒマワリで地域問題を解決! 土壌改良、景観保護、そしてBDFに! 室井 義経 北海道中標津農業高等学校 農業クラブ酪農・環境・飼料作物・農業機械分会 高校2年生	500,000
D07-LY-012 千葉	大温室復活プロジェクト——蝶から始まる地域活性化 中川真理来 千葉県立成田西陵高等学校 地域生物研究会 高校1年生	500,000
D07-LY-013 熊本	地域活性化企画——人吉・球磨に吹く新しい風 立岡志穂里 球磨工業高校建築科 高校2年生	500,000
D07-LY-015 秋田	地域ネットワークの構築をめざして——明るく元気なまちづくりは私たちの手で 佐藤 蘭 秋田県立横手清陵学院高等学校 家庭クラブ 高校1年生	500,000
D07-LY-016 滋賀	生物系資源ゴミの肥料化と障害者の職場作りをめざして 吉田 宏平 甲南高等学校農林技術科アニマル班 高校2年生	500,000
D07-LY-019 神奈川	めざせ地域のリサイクルセンター——給食残飯からはじまるエコフィードが地域を結ぶ 彦坂 生子 神奈川県立相原高等学校農業クラブ 相っこプロジェクトチーム 高校1年生	500,000
D07-LY-027 高知	竹と人 川上 大介 高知農業高等学校森林総合科竹班 高校3年生	500,000
D07-LY-033 愛知	愛知の赤い情熱——県木拡大プロジェクト 内田 有紀 愛知県立半田農業高等学校農業園芸科環境緑化専攻ハナノキ研修班	500,000

助成番号	題目氏名 所属	助成金額(円)
D07-LY-040 山形	With 優カフェ 竹内健太郎 With 優 高校2年生	500,000
D07-LY-042 愛媛	Enjoy Eco Walking! 磯道 有美 愛媛大学農学部附属農業高等学校 お遍路探検隊 高校2年生	500,000
D07-LY-044 佐賀	私達の故郷虹ノ松原を守れ! — 松露の復活を目指して 栗原 実希 佐賀県立唐津南高等学校食品流通科 松露プロジェクトチーム 高校2年生	500,000
D07-LY-046 鹿児島	「かのや菜の花エコプロジェクト」を通じた資源循環型システムの形成と地域への普及と農地の有効活用について 森 千秋 鹿児島県立鹿屋農業高等学校農業科 環境保全研究グループ 高校2年生	500,000
D07-LY-048 大阪	小規模養蜂による地域の活性化 — ミツバチを利用したコミュニティづくり 塩谷 晶子 大阪府立園芸高等学校 ハニービーサイエンスクラブ 高校2年生	500,000
D07-LY-049 静岡	地球温暖化から安倍川水系のワサビを守る — 「光触媒」を活用した新たな施設園芸技術の提案 青木 達哉 静岡県立静岡農業高等学校「光触媒」研究班 高校2年生	500,000
D07-LY-057 奈良	地域に開かれたわくわく動物教室 中西 亮太 磯城野高校 生物活用コース 高校2年生	500,000
D07-LY-058 岡山	日本農業復活計画 — 農業が大好きだから 土佐 良輔 岡山県立興陽高等学校 乳牛とゆかいな仲間たち	500,000



# 研究助成プログラム

## 研究助成プログラム

### 概要と活動結果

2007年度の研究助成プログラムは、前年度にひきつづき「くらしといのちの豊かさをもとめて」を基本テーマとし、本体部分と三つの特定課題「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」、「助成金が活きたとは」、「江南、嶺・湖南、瀬戸内」を展開した。公募にあたっては新聞などのマスメディアへの働きかけを強化した。

本体の「くらしといのちの豊かさをもとめて」については、プログラム趣旨の間口が広く、応募プロジェクトのテーマが多岐にわたった。そのため、選考委員長からフォーカスを絞ることが望ましいとの指摘がなされた。

また、モニタリングの標準化・効率化を図るためのモニタリングカルテ作成、助成対象者ためのプロジェクト・マネジメントの手引書の作成・配布などを行った。

2007年度に初めて設定した特定課題「江南、嶺・湖南、瀬戸内」は東アジアにおいてつながりの深い3地域間でどのように文化交流が行われ、くらしの質的向上に貢献したかを探る研究を公募し、19件の応募があった。しかし、選考委員による研究会で、「対象地域が限定され、過去の事例研究にとどまるものが多かった」との指摘があったことから、対象地域を拡大し、現代の東

アジア域内交流の促進につながるものに改編を図ることとした。

特定課題「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」は三年度目に入り、成果普及のための特別枠を設定した。

同特定課題「助成金が活きたとは」においては、2008年度が最終年度となることから、今後の成果発表に向けて助成対象者と選考委員による研究会を開催した。

また、2007年2月に選考委員・助成対象者などの構成による「評価・モニタ研究会」を立ち上げ、3回の研究会を開催して個別プロジェクトの評価やフォローについて議論を深めた。

これらの研究会を通じて「助成対象者・財団・選考委員間での情報の共有化」、「プロジェクトおよびプログラムレベルでの成果の社会発信」の必要性などが指摘された。なお、採択されたプロジェクトのプレゼンテーションを実施し、助成対象者と財団との情報の共有化を図った。助成対象者と財団との信頼関係の上でも有効であり、他のプログラムにも展開した。



■ 2007年度研究助成プログラム助成実績

	応募件数(件)	助成件数(件)	助成金額(千円)	予算額(千円)
(本体) 研究助成	751	53	150,000	150,000
(特定課題) アジア周縁部における伝統文 書の保存、集成、解題	46	10	25,000	25,000
(特定課題) 助成金が活きるとは	15	3	10,000	10,000
(特定課題) 江南、嶺・湖南、瀬戸内	19	4	20,000	20,000
計	831	70	205,000	205,000

# 研究助成（本体）

## 選考にあたって

李成市 [選考委員長]

### ① 応募件数、採択プロジェクト件数、採択率

トヨタ財団研究助成プログラムが、その基本テーマを「くらしといのちの豊かさをもとめて」に切り替えて、2年度目の選考（事前評価）が終了した。その結果、53件のプロジェクトを採択し、今次の理事会に推挙することとなった。

前年度よりも応募件数がやや減少した点については（2006年度795件→2007年度751件）、設定プロジェクトの課題に一定の傾向が見られることから、基本テーマ自体は広範な研究に関与しうる抽象度の高い命題であるにもかかわらず、少なからず一面的に捉えられているのではないかと感じられる。

意外性のある課題や、壮大な課題というものは少なく、また、院生・若手研究者の応募比率が減少しているという印象をもった。とはいえ、採択率は7.1%であり、20%前後の公的助成金の水準と比べると依然として厳しいものがある。

### ② 採択プロジェクトの設定課題と

#### 成果（アウトプット）の形態、発信方法の傾向

本年度の採択になったプロジェクトの傾向を概括すると、「研究プロジェクトの入り口に当たる設定課題と出口に相当する成果の両面で、現実社会への妥当性、関連性（relevance）が求められるようになった」とまとめられるだろう。設定課題と成果発信について、それぞれのレベルでみてみたい。

#### ②-1 設定プロジェクト課題

設定したプロジェクトの課題は、何らかの形で現実社会への応用や実践を重視するプロジェクトがほとんどだった。たとえば、医療、とくに公衆衛生や看護など健康科学（ヘルス・サイエンス）分野の応募が目立った。財団事務局の整理に従うと、採択にいたった53件のプロジェクト課題は以下のようなカテゴリーに整理ができる。もちろん、これは暫定的なカテゴリーなので、留意していただきたい。

### ■ 2007年度「くらしといのちの豊かさをもとめて」採択プロジェクト課題概括

課題	件数
過去の伝統の見直し（内発的知識）(Indigenous Knowledge)	10
医療と社会 (Health and Society)	10
持続可能な発展 (Sustainable Development)	9
社会紛争の克服 (Conflict Resolution)	5
アイデンティティ (Identity)	5
文化 (Culture)	4
地域開発 (Regional Development)	3
北東アジア近代史 (Modern History of Northeast Asia)	3
その他 (Others)	4
計	53

これを通覧すると、一目瞭然となるが、これらのカテゴリーは、いずれも国際機関や国際金融機関が掲げている応用的なテーマと重なり合うものであり、おおよそアカデミズムにおける課題とは異なる。おそらく最もアカデミックな色彩の濃いカテゴリーは、「北東アジア近代史」と思われるが、これにしても、今後の北東アジアにおける国際関係の未来を展望するために、過去の交流や葛藤の歴史を振り返るといった実践的な色彩の濃いものである。

## 2-2 プロジェクトの想定される

### 成果(アウトプット)の形態、発信方法の変化

伝統的には、研究プロジェクトの成果は、学術論文ならびに専門書の形態をとることが多く、またそれが当たり前のことと考えられてきた。しかし、今年の採択にいたったプロジェクトが想定している成果の形態をみると、多様化していることがよくわかる。映像作品(ドキュメンタリーやDVD)、提言書、ハンドブック、データベースなどの例が挙げられる。このような形態の変化は、当然のことながら、その成果のターゲットが一般社会に向けられていることと対応している。それゆえ、成果の形態の変化は、単なる形式上の変化にとどまるものではなく、いわば知と社会との関係の変化をみてとることも可能であろう。こうした傾向を先取りするならば、プロジェクトの立案過程において、まず研究プロジェクトの成果の最終活用者(エンドユーザー)がどのような集団なのか、また、その集団がどのような情報を欲しているか、というところから逆算して、プロジェクトの設計をする必要が生じてくると思われる。

## 3 来年度以降の申請者と財団へ向けての提案

本年度の選考をふまえて、次年(2008年)で三年度目を迎える、「くらしといのちの豊かさをもとめて」プログラムをよりよいものとしていくために、以下のような提案を行いたい。

### 3-1 申請者への提案

財団が掲げている助成プログラムの成否の鍵を握るのは、最終的には個別のプロジェクトである。プロジェクトの質的な向上が必須であり、そのためには財団と助成

対象者(グランティ)相互間の協働が求められる。そこで、まず申請者にむけての提案は次のとおりである。

本年度、理事会に推薦するにいたった53件を含めて、多くのプロジェクト企画案の中には共通の弱点があった。それは、限られた資源(時間、人力、資金)の中で、複数の目標を同時に追求しようとする傾向である。これでは必然的にエネルギーの分散につながるであろうし、プロジェクトが途中で別々の方向に分解する帰結を招きかねない。こうした問題点は、プロジェクトを単一の目標に限定するか、あるいは複数の目標群を追求する場合でも、目標群の相互の関係をよく整理するか、あるいは目標群の中での優先順位を明確に設定することによって簡単に避けることができるであろう。

もう一つは、いかにも短時間のうちに書き上げたと思われる企画書が多かったことである。そのような企画書の論理には、脆弱さや飛躍がどうしても目立つこととなる。締切り間際になってから企画書を作成するのではなく、少なくとも2、3ヵ月前から準備をすれば、このような弱点は容易に克服することができるであろう。

また、いずれの場合においても、書き上げた企画書の草案は、提出する以前に複数の関係者の間で回覧し、複数の目で照合、確認作業を行ってはどうか。それだけで、企画それ自体と企画書の質は一段容易に向上するはずである。特に、異なる分野の研究者や、学界の外にいる実務家の意見を求めると、ロジックの強靱さが増すだろう。

### 3-2 財団への提案

財団の側においても、財団に提案される企画書の質の向上ならびに、採択後の助成対象者へのプロジェクト・マネジメントなど、後方支援のための枠組み作りに向けて、いくつかの施策の導入が必要であると思われる。

そのためにまず、2008年度の公募開始前の適当な時期に、よりよい企画書の作り方についての説明会を開催してはどうか。3-1でも述べたように、必要最小限の単純な過程を経るだけで、提案される企画書の水準は上がるであろう。また、こうした情報を将来の応募者に広く周知することができるであろう。

次に、助成プロジェクトの成果の普及に関わる支援についてである。今後、研究者が考えていかなければならない課題の一つに、プロジェクト成果をいかに普及させ

ていくかという問題がある。研究者は伝統的に情報(成果)の生産についてはさまざまな訓練を受けるが、その発信、流通については、いまだ道遠しの感がある。特に、映像作品やハンドブックなど、一般社会に向けた情報の提供についてはノウハウの蓄積が少ない。そこで、広く社会の中で、編集者やメディア関係者、ジャーナリスト、実務家などが、どのような形態の成果を欲しているのか、さらに、そのためには研究者は情報をどのように加工しなければならないかといった成果の発信、流通に関わる意見、情報交換をするような会合を財団が作ってみたいかどうか。

また、冒頭で言及した文脈に関わって、現行のプログラムのテーマである「くらしといのちの豊かさをもとめて」と「アジアにおける多元性、相補性、協働性」は魅力に富みつつも、いずれも抽象度の高い命題であるために、プログラムの趣旨についての、応募者の明晰な理解の妨げとなることもあるだろう。そこで、**2-1**で述べた課題群を中間目標におくことなどによって、より具体的な

目標を設定することを要望したい。

#### **4** 最後に

本年度より新たな試みとして、選考委員会終了後に、その通過者に対して自らのプロジェクト企画をプレゼンテーションする機会を設けた。海外滞在者も多く、全員を招聘できたわけではない。その意味で、選考それ自体とは直接の関係があるわけではない。それにもかかわらず、助成対象者が自らの考えを選考(事前評価)関係者に訴えかける場が設けられ、それに付随して意見交換がなされたことは、プロジェクトの共有という意味でも有益であった。前述のとおり、プロジェクトの質的な向上のためには財団と助成対象者(グランティ)相互間の協働が求められる。それゆえ、選考(事前評価)関係者と助成対象者の間の対話と信頼関係の醸成は、今後におけるプログラムの発展、深化に貢献をするものと信じる。

## 研究助成（本体）

### 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-R-0009	ラオスに残るアジア的身体感覚を、記録し、伝えてゆくことは可能なのか？ 浅沼智寿子 フリーランス・マイミスト	4,500,000
D07-R-0027	中国雲南「三江併流」流域の多様性民族音楽文化に関する現地調査および保存と伝承活動 中国 張興榮 雲南芸術学院音楽学院 雲南民族音楽研究基地 教授	3,000,000
D07-R-0046	アルゼンチン沖縄県人移民史編纂プロジェクト—アルゼンチン社会に培ってきた実績・信頼をいかに後世に伝えていくか 移民史発刊による次世代の意識高揚に繋げる 米須清文 在亜沖縄県人連合会 会長	3,800,000
D07-R-0049	致死性感染症流行時における「くらしといのちの豊かさ」にやさしい情報伝達法の追求—中国におけるSARS 経験から新型インフルエンザの報道を考える 勝田吉彰 近畿福祉大学社会福祉学部 教授	1,100,000
D07-R-0054	「炭の技術と文化の里」・「木炭交流の道」実現のために—土佐備長炭、室戸の挑戦 宮川敏彦 民間研究者	4,120,000
D07-R-0056	いのちのバトンを受け継いだ者たちの暮らし—臓器移植を受けた患者と家族の10年間の喜怒哀楽 赤澤千春 京都大学大学院医学研究科 准教授	2,500,000
D07-R-0057	近代日本の絵本に関する研究—住吉大社「御文庫」および公共機関蔵の大阪資本絵本と関連資料調査 大橋真由美 大阪府立大学大学院人間社会学研究科 院生	2,000,000
D07-R-0065	ボブラによる重金属汚染土壌の浄化に関する研究 中国 唐羅忠 中国南京林業大学森林資源・環境学院 助教授	3,200,000
D07-R-0103	近世以前の土木遺産の全国調査—悉皆調査、価値判断基準の作成、保存・活用の方向性の事例分析を含めた総合調査 馬場俊介 岡山大学大学院環境学研究科 教授	3,500,000
D07-R-0114	いかにして医師親子は風土病マラリアを撲滅したか—第二次大戦後の滋賀県彦根市における地域活動 田中誠二 順天堂大学大学院医学研究科 院生	1,300,000
D07-R-0132	沖縄久高島の祭祀世界—1980年代の映像記録と現在の年中行事から読み解く神役、祈り、儀礼の場の変遷と継承 小山和行 沖縄学研究所 副所長	4,800,000
D07-R-0136	東アジアにおける「杜（もり）」の文化の考察と情報化 韓国 李春子 神戸女子大学 非常勤講師	2,350,000
D07-R-0150	「100年熟成住宅」構想—伝統木造の古民家に関する、新たな移築・再利用の構築手法の確立 三宅理一 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授	4,800,000
D07-R-0157	「豊かさ」のイメージへの文化人類学的アプローチ—カーゴ・カルト運動とメラネシア地域の現在 里見龍樹 東京大学大学院総合文化研究科 院生	2,600,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-R-0188	国際的拠点都市形成のための地方自治体と大学とのパートナーシップに関する研究—留学生を中心とした海外高度人材の集積 白土 悟 九州大学留学生センター 准教授	2,500,000
D07-R-0219	経済発展は母親からお乳を奪うのか—子育てからみた日本の近代化 村越 一哲 駿河台大学文化情報学部 教授	1,150,000
D07-R-0223	人はなぜ島にもどるのか—盆踊りが紡ぎだす社会的ネットワークと地域アイデンティティ 荒井 真帆 近畿大学大学院農学研究科 院生	1,430,000
D07-R-0234	文字を借しむ—近世東アジアにおける「借字亭」建設と借字慣習の展開 青木 教 大阪大学大学院文学研究科 准教授	2,450,000
D07-R-0239	新来外国人の子どもたちの現状を知り、よりよい支援と教育のあり方を考える—文化と言葉の異なる環境における暮らしを支え、豊かな未来を育むために 植本 雅治 神戸市看護大学精神神経医学専攻 教授	2,180,000
D07-R-0241	考現学と日韓モダニズム—1930年代都市空間を中心に 韓国 白 惠 俊 東京大学大学院総合文化研究科 院生	1,600,000
D07-R-0254	生活が良くなるとは、どういうことだったのか?—戦後の日本の村の経験から 片倉 和人 農と人とくらし研究センター 代表	4,000,000
D07-R-0261	タイに住む日本の子ども達の問題に関する研究—アレルギー性疾患に関する環境因子を探る 酒井 理恵 順天堂大学大学院医学研究科 院生	2,400,000
D07-R-0282	ラオスから発信する自然資源食料利用とその未来可能性—昆虫に着目した栄養摂取と環境多元性の持続的利用 野中 健一 立教大学文学部 教授	4,500,000
D07-R-0306	性産業に従事する女性達のくらしの知恵と職業上の工夫からもたらされる健康リスクの回避方法 大西真由美 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 講師	2,500,000
D07-R-0336	病気及び治療の理解が、小児のがんの子ども及び保護者に与える影響—適切なインフォームド・コンセントのあり方の検討、及び、小児のがんの入院体験がPTSDの要因になるという先行研究の再検討 西尾 温文 立教大学大学院現代心理学研究科 院生	1,170,000
D07-R-0347	海の上の国境線と生活・認識—「李ライン」の検証を通じてみた戦後の日韓関係 韓国 宮本 正明 (財)世界人権問題研究センター 専任研究員	3,620,000
D07-R-0362 (継2)	地域主体の地域おこしにむけて—熊野古道とともに生きる人びとの実践から 古村 学 龍谷大学社会学部 非常勤講師	600,000
D07-R-0381	中国安徽省農村部における女性のメンタルヘルス支援に関する研究—暮らしの中に埋め込まれた知恵を手がかりに 岩崎 弥生 千葉大学看護学部 教授	3,800,000
D07-R-0383	現代中国における社会運動と国家—都市部における農民工の「維権」運動を事例に 中国 呉 茂 松 慶應義塾大学大学院法学研究科 院生	1,250,000
D07-R-0418	地震後のパキスタンにおける精神疾患に対するアセスメント—メンタルヘルスサービスの再構築から見た宗教と社会システム パキスタン モアザム・アリ 東京大学大学院医学系研究科 准教授	4,500,000
D07-R-0422	越境する技術者、滞留する建造物、そして建物と向き合う力—旧日本植民地及び対アジア戦後賠償における空間建設史 谷川 竜一 東京大学生産技術研究所 技術職員	1,660,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-R-0442	家族に精神障害者——その現実をどう理解し、「受け入れ」てきたか——先人達の叡智に学ぶ 後藤 知子 民間研究者	800,000
D07-R-0455	ネパールにおける非識字社会の「意識の形」の実態調査——現代社会における「目に見えない豊かさ」の再発見とモデル構築 雨森 孝悦 日本福祉大学福祉経営学部 教授	2,500,000
D07-R-0460	豊かな地域社会と穏やかな暮らしの成立条件に関する経済生態学・社会生態学的研究 中国 胡 柏 愛媛大学農学部 教授	1,600,000
D07-R-0466	平和で豊かなネパール社会の創造に向けて——女性市民ネットワークと同時代史の記録 竹中 千春 明治学院大学国際学部 教授	4,000,000
D07-R-0473	ムラハチブの発生要因とその回避方法——村落社会における円滑な人間関係の築き方 柏木 亨介 筑波大学大学院人文社会科学部研究科 院生	1,400,000
D07-R-0478	東京芸者の民族誌的研究——伝統芸能とセクシュアリティの所在 中岡 志保 広島大学大学院社会科学部研究科 院生	1,700,000
D07-R-0492	メディアのリスク情報検証とリスク取材ハンドブックの作成——リテラシー向上への実践研究 西澤真理子 (株)リテラシー 代表	3,380,000
D07-R-0501	タイガが失われる前に——ロシア木材輸出税引き上げと中ロ木材貿易の今後 永井 リサ 九州大学大学院比較社会文化学府 研究生	1,780,000
D07-R-0502	マツタケを求めて——新たな価値の創造 アメリカ ツイン・アンナ カリフォルニア大学サンタクルーズ校文化人類学科 教授	4,500,000
D07-R-0508	ミャンマーにおける乳児脚気と妊産婦に求められるフードタプーの理解 錦織 信幸 国連児童基金(ユニセフ)ミャンマー駐在事務所 プログラム・オフィサー	1,600,000
D07-R-0522	自給的生活文化と地域自給システムの復興をめざして 谷口 吉光 秋田県立大学地域共同研究センター 教授	3,000,000
D07-R-0538	平和構築における信頼醸成——憎悪と暴力の連鎖を断ち、新国家に対する信頼醸成によって平和を築く方法を、アフガニスタン・東チモールの現地調査と比較分析で探る 東 大作 ブリティッシュ・コロンビア大学大学院政治学科 院生	3,000,000
D07-R-0549	「ものがたる身体」と自然の調和——チベットの英雄叙事詩『リン・ケサル大王伝』の伝承母体が紡ぎ出す豊かな草原社会像の研究 別所 裕介 広島大学大学院国際協力研究科 院生	2,060,000
D07-R-0590	生活圏に存在する異なる三種の歴史遺産の同時保全と持続可能な地域システムの構築に関する研究——中国広東省を対象にして 菅野 博真 明治大学農学部 准教授	4,000,000
D07-R-0597	生徒も先生もいなくなった学校が教えるもの——都心部における学校の統廃合問題を、地域住民の視点から考えるための参加型映像制作プロジェクト 鈴木 伸二 龍谷大学社会学部 講師	4,000,000
D07-R-0621	中スラウェシ・山の民の生活世界——映像記録の共同制作を軸とした山村文化の再評価と学びあい 島上 宗子 いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク(あいあいネット) 共同代表	6,400,000
D07-R-0632	フード・ジャスティスから考える持続可能な「スシ」のあり方——グローバルとローカル、二つの「シーフード・システム」の環境社会学 野崎 賢也 愛媛大学地域創成研究センター 准教授	4,000,000

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-R-0654	「村のこころ」で受け継がれてきた「講」の知恵を現代の地域社会に活かす―「持ち回り・持ち寄り」で育む人の絆 小倉美恵子 (株)ささらプロダクション 代表取締役	5,000,000
D07-R-0657	Isian' deer (アイラン・ディアー) 島の子供達とともに―ニホンジカを中心とした森林生態系の研究とその持続的保全および活用 遠藤 晃 佐賀大学農学部 特定研究員	3,800,000
D07-R-0674 (継2) 韓国	植民地期朝鮮における「儒教文化」の研究、その形成と変容―儒教イデオロギーの再編と植民地文化の遺産 柳美那 韓国国民大学校日本学研究所 研究教授	1,140,000
D07-R-0698	チャレンジ!北ラオスの茶文化発場、そして地域社会の発展―「商品作物」としての茶から「文化的産物」へ向けての付加価値づくり 吉田 歩 浙江大学農業技術生物学院茶学部 院生	2,460,000
D07-R-0699 (継2) 中国	20世紀前半における日本人研究者による現地実態調査資料に関する調査とカタログの作成 格日勒図 内蒙古農業大学草原文化研究所 助教授	3,000,000



## 特定課題：アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題 選考にあたって

クリスチャン・ダニエルス [選考委員長]

### ❶ 審査結果の概要

本年度は「アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題」が発足して三年度目に当たるが、応募件数は下記の表のとおり増加の一途をたどっている。

これは本特定課題に対する需要の大きさを反映していると同時に、本特定課題の趣旨に対する関心が高まってきた結果であると選考委員一同受け止めている。採択件数は外国応募者からの申請企画2件を含む6件となった。

本年度は助成金総額が昨年度の2,000万円から2,500万円に増やされたが、これは本年度から本特定課題に新設された「成果普及」の枠組みに対処するためである。この新枠組みは、すでに採択された案件の中から特に優れた成果を選び、普及させるための助成であるが、この枠組みの初年度に当たる本年度には合計4件の応募があり、厳正な審査をへて4件すべてが採択される結果となった。本特定課題全体での合計採択件数は10件となり、なかでも新たな枠組み関連のプロジェクトが40% (4件) という高い比率を占めたのは、成果普及を優先したためである。

このような方針を採用した背景には、本年度の申請案件は質・量ともに向上しているだけでなく、特に優れた企画も多く、限られた予算の中で優先順位が付け難い

という、選考委員にとっての厳しい現実もあった。選考委員一同は、この現実と発足三年目という節目に当たる事情に鑑み、優秀な新企画の採択に目を配りながらも、すでに助成した案件の中に成果が見込まれる継続案件及びすでに終了した案件の成果普及、すなわちアウトプットを重視する方針を決定した次第である。

### ❷ 保存の緊急性と地域の歴史・文化形成への貢献

本年度の申請企画の多くは、民間に保有されている伝統文書を対象にしており、企画書からは多くの伝統文書が消滅の危機に晒され、緊急に保存する必要性が切実な課題となっていることがひしひしと伝わっている。過去2年間の選後評でこれを指摘しておいたが、本年度の審査過程においても緊急性が常に存在する要因であることが再確認され、この報告書でそれを改めて強調しておきたい。すなわち、経済発展と政治統合が進行する中で、アジア各国内の周縁部と位置づけられる地域において、資金不足や専門家の不在などの理由によって伝統文書が保存されていない現実に対処するために、本特定課題による保存、集成、解題の事業が急務であり、選考委員一同はこの助成を継続する必要性を再度確信した。

成果普及の枠組みを開始した本年度には、伝統文書の

### ■ 2005年～2007年「アジア周縁部」応募件数

(件)

	2005年度	2006年度	2007年度
日本国籍応募者	18	10	17 (3)
外国籍応募者	10	22	29 (1)
合計	28	32	46 (4)

注：2007年度の()内の数は「成果普及への応募件数」

保存事業の波及効果として、学術研究を推進するのみならず、地域住民に対しても自己アイデンティティの深化を促進する重要な役割がある点がこれまでよりも明確になった。昨年度と同様、本年度の申請企画にも地域住民の参加が広くみられる。日本国内外を問わず、多くの代表者が地域住民のいづく伝統文書保存への強い要望を活かした申請企画を立てたことは極めて重要である。なぜならば、地域住民にとっては、伝統文書は自らの歴史と文化を再構築する貴重な資料となっており、伝統文書の保存は地域文化の維持・発展にも貢献し、さらに地域住民のアイデンティティの拠り所になるからである。

本年度の申請案件の約半数がアジア地域在住の研究者や機関からの企画を占めた事実は、地域住民の関心の高さを明示していると考えられる。保存、集成、解題及び成果普及の各事業を円滑に推進するためにも、今後の本特定課題の選考において、引き続き地域住民の要望による申請案件や地域住民が参加する申請案件に対して高い優先順位を与えることが望ましい。

### 3 助成の地域的広がり

まず、本特定課題が対象としているアジア周縁部について簡単にのべておく。アジア諸国の歴史と文化は、往々にして重層する地域や文化圏と絡みあっており、複数の国家にまたがって存在する場合も多い。ここでいうアジア周縁部の周縁部とは、1か国の中にも存在し、また大文明や強大な文化圏からみて周縁部に位置づけられた地域と民族をも指している。この概念の中には、いわゆる大文明に対して小文明とされた地域や文化圏も含まれ、また国家の大小を問わず、アジア各国内で周縁部と位置づけられる少数民族が居住する地域なども含まれる。

本年度の応募案件はアジア各地域に及んでおり、採択された10案件の地域的分配は、以下の表のとおりである。これは昨年度と同じく広い地域をカバーする結果となったが、本特定課題が発足して以来、西アジアを対象

とする案件が採択されたのは初めてである。

以下で、代表的と思われるプロジェクトのアウトラインを紹介しておく。

**3-1**「中国雲南省思茅地区におけるタイ族文書の保存と蒐集」(尹命)は、中国雲南省思茅地区において民間及び公的機関が所蔵するタイ文字で書かれた文書に対して、A. 緊急に保存する必要がある文書の調査、B. 文書の書誌データを詳細に記録し目録を作成・刊行する、C. この目録に基づいて価値のあるテキストをマイクロフィルム化する、という三つの作業を実施する企画である。

**3-2**「民家の物置からインド洋を眺める — イエメン、ハドラマウト地方における民間文書の保存、公開」(新井和広)は、イエメン共和国の東部に位置するハドラマウト地方の民家に所蔵されている地域住民の生活に関するアラビア語文書に対して以下の作業を行う。A. 文書をデジタルカメラで撮影する、B. 撮影した文書の目録を作成する、C. 文書の複写を地元の私設文館に寄付して公開する、D. 精選した重要な文書を影印本として刊行する。これは、本プロジェクトのメンバーになっている地元ハドラマウト大学の研究者の強い希望に基づく企画である。

**3-3**「新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究 — 成果普及へ向けた国際会議開催と論集出版」(菅原純)は、これまで2年間にわたり中華人民共和国とウズベキスタン共和国の両地域において、地元の研究者と共同でマザール文書を調査し、影印本を出版したプロジェクトから得た成果をさらに普及させる企画である。成果普及はA. 現地の中国新疆ウイグル自治区ウルムチ市において、地元機関の協力のもとで「マザール文書」の文化的・歴史的な位置づけを目的とした国際学術会議を開催する、B. 本プロジェクト成果の最終報告書として『論集』を編集するという二つの活動を含んでいる。

### 2007年度採択案件地域別配分

(件)

中央アジア	モンゴル	中国雲南	東南アジア	インド	西アジア	合計
3	1	1	3	1	1	10

## 4 来年度以降に向けて

今回の選考経過から、これまでと同様にアジア周縁部の伝統文書の保存事業に対して、研究者と現地の住民から大きな期待の寄せられていることが確認された。しかし、本年度においては選考委員一同は、限られた予算の中で、質・量共に向上した申請案件の選考に苦慮したのも否めない事実であり、また、委員一同は確実に増大している伝統文書保存の需要に対して、委員会としての役割がますます問われるようになっていく点を強く認識した。本年新設された「成果普及」の枠組みは、このような事態の解決に重要な役割を果たすことが期待されているが、本特定課題の中でそれをどのように運営していくかについてさらなる工夫が必要である。

伝統文書を保存、集成、解題する企画は、おおむね二段階に分類できる。第一段階は、特定の伝統文書を対象に保存、集成、解題を行う作業である。第二段階は、第一段階の作業を終了したのち、次のステップとして、その中で生成された成果(アウトプット)を普及させる作業である。第一及び第二段階の作業は、それぞれ学術コミュニティや現地社会、ひいてはグローバル社会に対して波及効果(インパクト)をもたらす得ると考えられる

が、申請案件の選考に当たり、この二つの段階の作業をどのようにバランスよく助成するかがまさに問題となっている。

本年度の申請企画から、伝統文書を保存する方法として実にさまざまな手段が想定されていることが確認された。過去と同様に、最適とされるマイクロフィルム撮影以外にも、デジタル撮影や影印本による出版を企画している申請も多くみられた。また、本年度において、成果普及の方法として国際会議を開催する企画もあった。選考委員会では、現地において伝統文書に対するアクセスを高める手段としては、影印本による出版は有効ではあるが、上記した二段階作業のバランス問題からみても、出版費が過大な比重を占める予算を組む刊行目的の申請案件は本特定課題の趣旨から外れていると考えている。

また、これまでと同様に応募金額を最大の上限に合わせた案件はみられたが、どの企画においても申請者が所期の事業を遂行するために、適正な予算を計上して最大の成果をねらうことが望ましいとも考えている。今後も、本財団の助成の特質を活かして、伝統文書の保存・普及に資する成果をもたらす企画を促進していきたい。

## 特定課題：アジア周縁部における伝統文書の保存、集成、解題

### 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-Q-011 (継2) ミャンマー	ミャンマーにおける古代モン族の貝葉文書および折畳み写本の保存・集成、およびミャンマー語と英語への翻訳・解題 ニュン・ハン ミャンマー考古学局 顧問	1,860,000
D07-Q-014 (継2)	12～19世紀ミャンマー伝統文書ダマセットおよび法律的写本の目録作成・翻字・翻訳・保存 池谷 智恵 シンガポール国立大学東南アジア研究プログラム 准教授	1,750,000
D07-Q-019	民家の物置からインド洋を眺める——イエメン、ハド라마ウト地方における民間文書の保存、公開 新井 和広 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 助教	2,960,000
D07-Q-024 (継2)	ウズベキスタン共和国プハラ市におけるイスラーム法廷文書の収集・保存・集成 堀川 徹 京都外国語大学国際言語平和研究所 教授	4,030,000
D07-Q-027	新疆民間のモンゴル語伝統文書の保存と集成——イリ地方のオイラド＝モンゴル人を中心に 井上 治 鳥根県立大学総合政策学部 教授	3,500,000
D07-Q-029 中国	中国雲南省中国思茅地域におけるタイ族文書の収集と保存 尹 俞 生物多様性・内発的知識研究センター 副センター長	4,900,000
D07-SQ-001 (継3)	資料集成と解題——シルクロード草原の道におけるアルジャイ石窟出土モンゴル語古文書集 大野 旭 静岡大学人文学部 教授	1,050,000
D07-SQ-002 (継2) アメリカ	仏教千年王国文学に関する学術書出版、作品の翻訳および分析 ピーター・コレート 極東学院 准研究員	650,000
D07-SQ-003 (継3)	新疆・フェルガナ両地域におけるマザール文書の調査・集成・研究——成果普及へ向けた国際会議開催と論集出版 菅原 純 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 産学官連携研究員	3,600,000
D07-SQ-004 (継3)	東部インド・オリッサ州丘陵地域における伝統文書の目録化と保存・収集プロジェクトの成果普及出版 杉本 浄 東海大学文学部 非常勤講師	700,000

# II-3 特定課題：助成金が活きるとは 選考にあたって

石田紀郎 [選考委員長]

2005年度に始まった、特定課題「助成金が活きるとは」も本年度で三年度目を迎えることとなった。当初から4年間の時限で設定された特定課題なので、まもなくその幕を閉じることとなる。その閉幕に向けて、この特定課題が投げかけた「助成金が活きるというのはどのようなことか」という設問に対して、研究者集団が出した回答が、明らかになりつつある。

それを命題の形でまとめれば、「研究という手法を用いて、プロジェクトを実施するプロセスと成果の両方の面で、現実社会に何かしらの建設的な影響(インパクト)を与える」ということになる。2007年度の公募を開始する前に、財団事務局と意見を交換した際には、もっと多様な命題を提示するようなプロジェクトが採択されることを望んでいたが、これはそうはならなかった。むしろ、総体として、上の命題に収斂するような形となっている。

とはいえ、まだ荒削りな命題であるが、そのような考えを提唱した応募者や助成対象者が若手・中堅であることを考慮すると、積極的な意味を有する。少なくとも、「象牙の塔」としてしばしば揶揄されることのある既成のアカデミズムの中に閉じこもろうという発想とは距離があり、また近年よく使われる、学術論文の産出点数を以って研究の価値を計量しようという Citation Index の考え方も異なる。今後はこの命題をさらに説得力のあるものにしていくことが、この特定課題を運営する側に対するチャレンジということになるだろう。

本年度の選考(事前評価)を経て、理事会に推薦することになったプロジェクトはいずれも、上の命題がその発想の中核にある。「もの資料をメディアに『経験』と『思い』を分かち合う手法の開発」(代表者・落合雪野鹿兒島大学准教授)、「1970年代の反公害住民運動が蓄積した資料の整理・活用の道を探る」(同：友澤悠季京都

大学大学院農学研究科院生)、「市民版“京都議定書・虎の巻”の作成およびその持続可能性への貢献の評価」(同：浅利美鈴京都大学環境保全センター助教)に共通して見られる発想は、何らかのプロジェクト——展示、一次資料集成、ハンドブック——をプロジェクトの中で製作し、次の段階ではそのプロジェクトが社会に対して生み出す影響(インパクト)を測定しようというものである。

いずれのプロジェクトも、プロジェクトを作成するところの道筋まではかなり明瞭に考えられているが、そのインパクトをどのように測るかについては今後さらに思考を積み重ねてもらい必要があるだろう。これは、今後の財団事務局と上記プロジェクト・リーダー達との間の対話の重要なポイントとなると思われる。若手の研究者が実施するプロジェクトである以上、瑕疵はしばしばあり、また現在進行中のプロジェクトの中には、実際に難しい局面にさしかかっているものもあると聞く。財団との連携の中で、より適切なプロジェクト運営を行ってほしい。

それでは、この特定課題の最終年度に向けて考えていかなければならない点を以下のようにまとめておきたい。いずれも「研究を通じて、現実社会に建設的なインパクトを与えることが、助成金が活きる」という命題を精練していくうえで重要と思われることである。

- これまでこの特定課題において助成を受けたプロジェクト間の交流の促進
- 同様に、事前評価に当たった選考委員とプロジェクト・リーダーらとの意見交換
- プロジェクトに対する詳細なモニタリング
- より純粋な学術研究を支持する立場の研究者との意見交換

これらの検討を通じて、この特定課題の最終的な取り纏めに向かっていくことになるとと思われる。

## 特定課題：助成金が活きるとは

### 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-J-002	市民版「京都議定書・虎の巻」の作成及びその持続可能性への貢献の評価 浅利 美鈴 京都大学環境保全センター 助教	2,700,000
D07-J-005 (継 2)	もの資料をメディアに「経験」と「思い」をわかちあう手法の開発—トラベリング・ミュージアムによる実践 落合 雪野 鹿児島大学総合研究博物館 准教授	4,720,000
D07-J-013 (継 2)	1970年代の反公害住民運動が蓄積した資料の整理・活用の道を探る—資料から生まれる新たなネットワークの価値に注目して 友澤 悠季 京都大学農学研究科 院生	2,580,000

## 特定課題：江南、嶺・湖南、瀬戸内

### 選考にあたって

伊藤亞人 [選考委員長]

#### ① 「地域」という方法の有効性・意義について

「くらしといのちの豊かさをもとめて」と「アジアにおける多元性、相補性、協働性」という二つの基本概念のもとで、とりわけ人々の生活の多元な実態を解明するには、さまざまな活動や交流が積み重ねられてきた生活経験の場である「地域社会」に注目することが現実的である。これまでの個別の分野や側面に焦点をおいた研究も、具体的な「地域」における相互の脈絡を踏まえることによっではじめて現実の生活像の解明に寄与できるものであり、個別分野の研究を総合して生活現実に迫るうえで「地域」という視点は欠かせない。

国家が今後もなおしばらくは基本的な世界秩序の枠組みであるとはいえ、人々の生活相において国境を超えた市民交流と連帯を視野に入れるなら、生活経験の空間として地域は重要な方法となっている。東アジアにおいて生活経験の共有を通して連帯を深めるためには、こうした地域概念を踏まえた交流研究と実践が欠かせない。

#### ② 採択にいたったプロジェクトの評価

本年度採択されるにいたった4件の研究プロジェクトは、いずれも具体的な物をめぐって展開されてきたこの地域・海域における人々の交流に注目するものであり、美的意識や思想、知識や技能の共有を通してこの地域の人々が生活像の共有を目指してきた実態を明らかにしようとする点で本プログラムの課題に相応しいものである。

陶磁器と金属工芸品などの物質文化は、この地域・海

域における文化史的研究の中でも大きな関心と呼んできた。採用された久保智康代表および森達也代表による研究プロジェクトも、交易・伝搬・流通あるいは技術・形態の比較といった側面について総括するとともに、これに携わった人々やこれを制作し愛好した人々の関心や嗜好にも注目して、この海域・地域像に接近することを目標としている。

書物を手掛かりに取り上げる河宇鳳等による研究プロジェクトは、物質としての書物の出版や流通面などの歴史的研究にとどまらず、読書を通して書物がこの地域の社会や人々の生活に及ぼした影響を取り上げるものである。

東賢司代表による研究プロジェクトは、印譜という特殊な物質文化に注目しながらも、中国・朝鮮・日本の文人たちの書や篆刻にとどまらない幅広い交流を視野に入れて、その具体的な交遊や足跡に迫ろうとする試みである。個人に視点を置きながらも具体的な交流をとおして交遊空間としての地域像に迫ろうとする点で特異な可能性を秘めている。

以上の案件は、いずれも当プログラムの趣旨を踏まえ、具体的な成果が見込まれる堅実なプロジェクトと評価されるが、「くらしといのちの豊かさ」の向上を求めた人々の交流の実態に迫るという目標のためには、これらのプロジェクトを機に、従来の堅実な研究姿勢に必ずしも囚われない「資料からの読み取り」や問題提起にも心掛けるべきであり、具体的には、物質文化を担った人々の生活の実像に迫る積極的かつ真摯な姿勢が求められよう。

### ③ 特定課題の在り方についての提示・提案

東アジアを対象とする研究は、近年急速に現地研究および研究者間の交流が進んでいるとはいえ、一方で今なおその多くは、歴史、思想、美術、考古学、政治外交史、経済、教育、宗教、民俗などの個別分野が枠組みとなっていて、個別の分野には既存の枠内の保守的な傾向が根強く、人々の連帯の基盤となるような地域社会像や市民交流に寄与するような学際的研究や応用・実践的な研究はまだ一部に限られている。そうした傾向は日本の歴史学全般に根強く、資料主義的・領分固守的な姿勢によって地域社会の複雑さや流動性あるいは生活の現実

対応が遅れがちとなっている。国家や一部エリート主導の時代とは異なり、今後の市民主導の交流時代には、いずれの分野の研究もこうした市民交流に資することが求められよう。

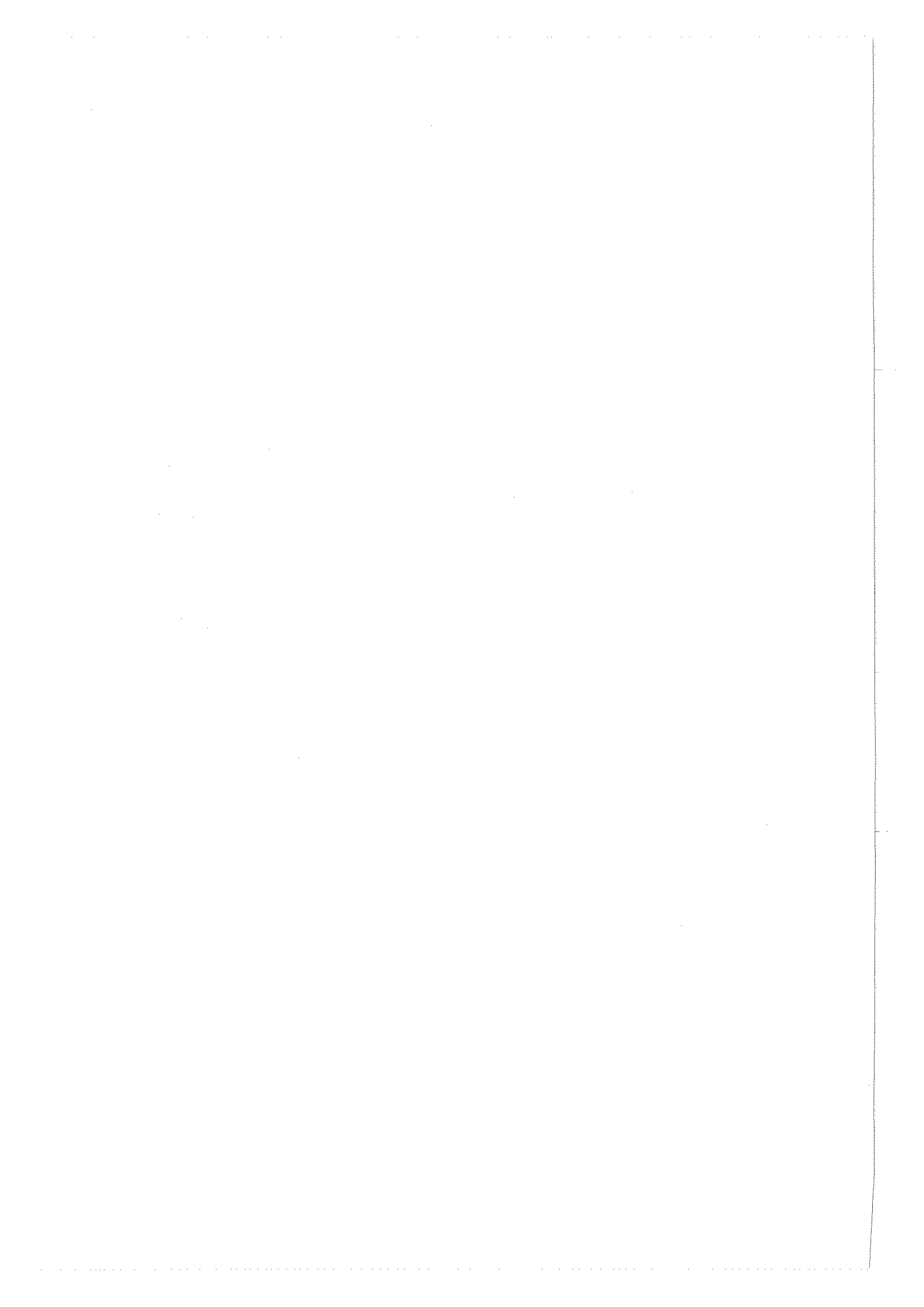
そうした私見に依拠するかたちで選考(事前評価)委員会においても、特定の研究分野(discipline)を超えた課題志向型のプログラムばかりでなく、今後はさらに実践志向型(practice-oriented)ないしは応用的・地域連携・参加型の課題設定と研究——実践態勢を認定し奨励する必要性があるということが話題となった。財団側の今後の研究と検討を望みたい。



## 特定課題：江南、嶺・湖南、瀬戸内

### 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-RO-001	瀬戸の文化人醜集の印譜から俯瞰する異文化移入——伊予の篆刻家藤井浅子文庫から見た瀬戸内と江南・湖南の交流史 東 賢司 愛媛大学教育学部 准教授	5,000,000
D07-RO-008	中・近世の金属工芸品の製作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究 久保 智康 京都国立博物館工芸室 室長	5,000,000
D07-RO-015	江南、嶺・湖南、瀬戸内地域における書物の連携と「読書共同体」に関する研究——壬辰倭乱・文禄/慶長の役・明朝末期以後の前近代時代を中心に 韓国 河 宇 鳳 韓国国立全北大学校人文大学 教授	5,000,000
D07-RO-017	東アジアにおける陶磁生産技術の伝播についての調査研究——江南、嶺・湖南、瀬戸内を結ぶ陶磁の道 森 達也 愛知県陶磁資料館 主任学芸員	5,000,000



# IV

## 計画助成プログラム

# IV-0

## 計画助成プログラム

### 概要と活動結果

2007年度の計画助成プログラムは、7件の助成を行ったが、助成件数、助成金額とも前年度(20件、72,775千円)より大幅に減少した。

計画助成プログラムの目的は、新しいプログラムの開発に貢献しうるプロジェクト、及び他の財団や機関と共同で行うプロジェクトに助成することであるが、現状では新プログラムにつながる可能性のあるプロジェクトが少ないのが実情である。原因としては、現在のところ当プログラムの運営が、トヨタ財団に関わりのある有識者

からの企画提案に大きく依拠している点があげられる。今後、当プログラムに、トヨタ財団自身が主体的により深く関わっていくことが求められている。

また2006年度に引き続き上智大学と共同して行った寄付講座は、「エネルギーがくらしといのちに与えるインパクト — グローバルな変動からライフスタイルまで」をメインテーマに、2007年度(2007年10月～2008年1月)に14講座が開催された。

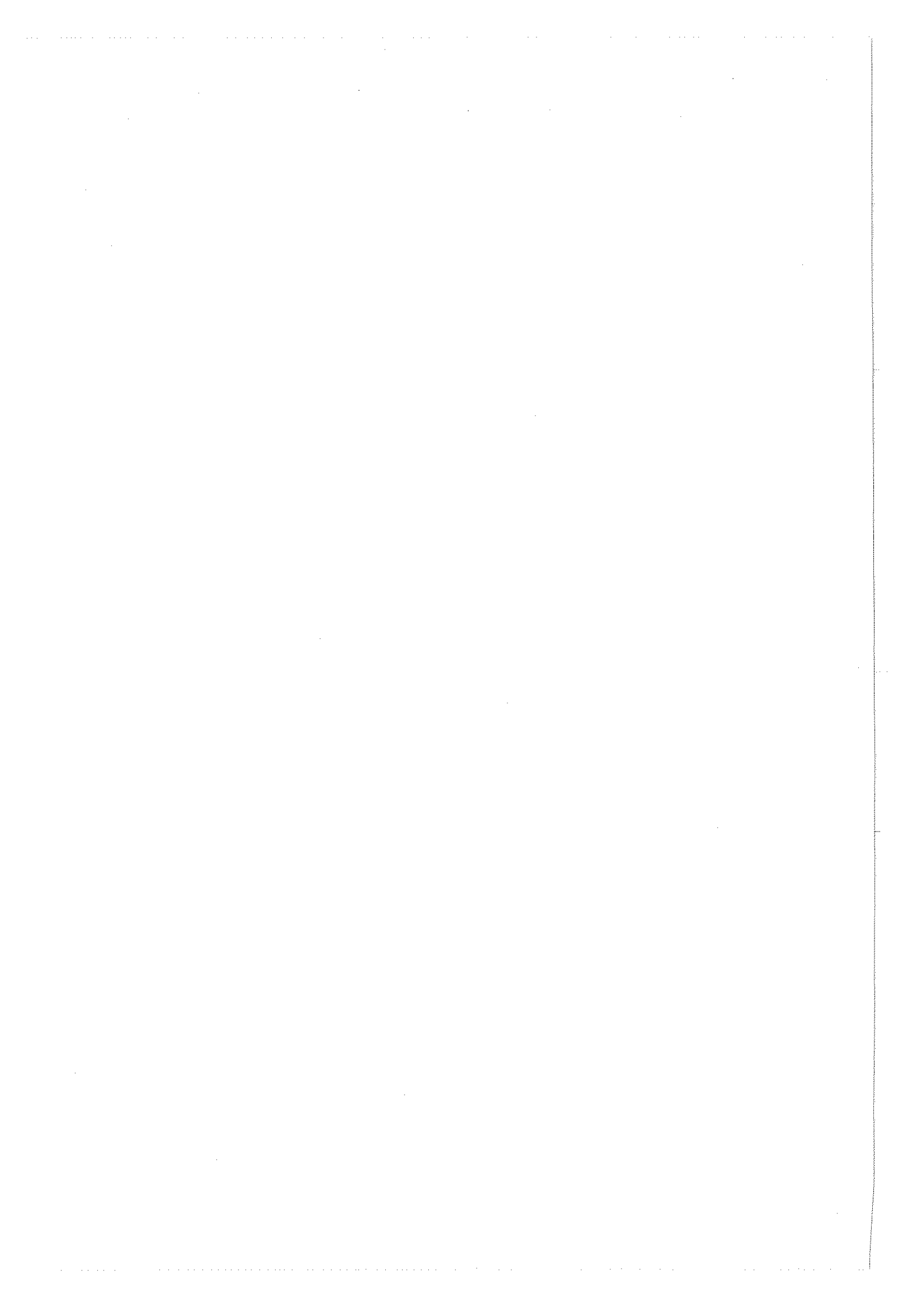
#### ■ 2007年度計画助成プログラム助成実績

	助成件数(件)	助成金額(千円)	予算額(千円)
計画助成	7	23,487	70,000

## 計画助成プログラム

### 助成対象一覧

助成番号	題目 氏名 所属	助成金額(円)
D07-P-001 (継3)	市場経済下の現代チベット——宗教復興と文化教育 村田雄二郎 東京大学大学院総合文化研究科 教授	2,400,000
D07-P-002 (継2)	上智大学寄附講座「エネルギーが暮らしといのちに与えるインパクト——グローバルな変動からライフスタイルまで」 吉田 研作 上智大学外国語学部 学部長	1,980,000
D07-P-003	アルゼンチン日本人移民資料館の展示活動 一色田 眸 アルゼンチン日本人移民史編纂委員会 委員長	2,000,000
D07-P-004 (継3)	東アジア出版人会議——東アジア地域における出版の現在から、共通の文化的課題と学問研究のあり方を 探る 加藤 敬事 (財)関科学技術振興記念財団 評議員	7,000,000
D07-P-005	民間非営利組織の評価手法開発——持続性とイノベーション促進のために 田中 弥生 非営利組織評価研究会 代表	3,250,000
D07-P-006 (継2) オランダ	バクヴィア華人公館公案簿(出版) J.L. ブルッセ・ファン・オウドーアルプラス レイデン大学 教授	36,000(ドル)
D07-P-007 (継4)	日本占領期東ティモール文献目録(出版) 後藤 乾一 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授	3,250,000





# 事業実績

## 事業実績

### 概要

本年度の助成事業の内訳は、次ページの表に示すとおりである。研究助成本体、特定課題計で70件2億500万円、地域社会プログラム助成は90件1億円、アジア隣人ネットワーク助成は39件1億2,000万円、東南アジア研究地域交流プログラム助成は24件2,590万9,620円\*、計画助成は7件2,348万6,840円\*、成果発表助成は9件1,009万5,515円\*、以上合計すると助成件数は239件、助成金総額は4億8,449万1,975円である。

その結果、これまで33年間の助成金累計は件数で7,009件、金額で148億2,413万4,291円となった。なお、以上の金額は理事会決定段階のものであり、その後の変更(一部助成金の返納等)は含んでいない。

本年度の会計状況は、次ページ以降の表に示すとおりである。

\*金額が円単位まで細かくなっているのは、海外向け助成金については、為替相場による現地通貨額の変動をできる限り少なくするために、決定金額を米ドルにしたためである。

#### ■ 本年度のトヨタ財団の自主事業

##### ■ 研究助成「評価・モニタ研究会」(第二回)

日時:2007年4月16日  
場所:新宿三井ビル会議室

##### ■ アジア隣人ネットワークプログラムワークショップ

日時:2007年7月21日  
場所:新宿三井ビル会議室

##### ■ 研究助成「評価・モニタ研究会」(第三回)

日時:2007年10月19日  
場所:新宿三井ビル会議室

##### ■ アジア隣人ネットワークプログラム公開シンポジウム「人と人とのつながりがアジアの可能性をひらく——ネットワーク形成が生み出すもの」

日時:2007年10月25日  
場所:センチュリーハイアット新宿

##### ■ 特定課題「助成金が活きたとは」研究会

日時:2007年12月14日  
場所:新宿三井ビル会議室

##### ■ 特定課題「江南、嶺・湖南、瀬戸内」研究会

日時:2008年12月26日  
場所:新宿三井ビル会議室

##### ■ 2008年度アジア隣人ネットワークプログラム公募説明会

日時:2008年3月11日  
場所:新宿三井ビル会議室

##### ■ 2008年度研究助成プログラム公募説明会

日時:2008年3月12日  
場所:新宿三井ビル会議室

##### ■ 2008年度特定課題「海の東アジアが醸成する文化」公募説明会

日時:2008年3月21日  
場所:新宿三井ビル会議室

##### ■ 映像ワークショップ

日時:2008年3月27日  
場所:新宿三井ビル会議室



# 助成金累計表

2008年3月31日現在

助成種別	年度	1975年度 ～2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	累計
研究助成金		1,902 6,136,910,000	81 190,700,000	71 160,450,000	67 157,100,000	68 180,000,000	70 205,000,000	2,259 7,030,160,000
地域社会プログラム 助成金				56 55,000,000	47 54,540,000	73 80,000,000	90 100,000,000	266 289,540,000
市民活動助成金		356 533,180,000	30 40,200,000	[当プログラムは2003年度にて終了]				386 573,380,000
市民社会プロジェクト 助成金		21 99,450,000	1 5,000,000	[当プログラムは2003年度にて終了]				22 104,450,000
市民研究コンクール 助成金		198 372,600,000	[当プログラムは1994年度にて終了]					198 372,600,000
アジア隣人ネットワーク 助成金					16 58,600,000	31 100,000,000	39 120,000,000	86 278,600,000
東南アジア国別助成金		1,380 2,271,425,859	48 60,335,316	40 58,091,284	[当プログラムは2004年度にて終了]			1,468 2,389,852,459
東南アジア研究 地域交流プログラム助成金		229 274,537,066	20 24,879,322	17 24,969,172	21 73,046,838	21 28,043,327	24 25,909,620	332 451,385,345
研究能力向上プログラム 助成金		5 19,034,991	7 29,411,990	[当プログラムは2003年度にて終了]				12 48,446,981
インドネシア若手研究 助成金		601 125,246,497	[当プログラムは2000年度にて終了]					601 125,246,497
「隣人をよく知 るう」プログラム 翻訳出版促 進助成金	日本向け	239 496,950,000	5 9,000,000	[当プログラムは2003年度にて終了]				244 505,950,000
	アジア 相互間	261 498,110,625	14 9,390,299					275 507,500,924
計画助成金		262 777,184,941	14 33,371,151	16 55,825,280	17 59,599,566	20 72,774,700	7 23,486,840	336 1,022,242,478
特別助成金他		56 446,559,587						56 446,559,587
成果発表助成金		413 612,166,665	5 8,899,080	7 11,117,200	15 14,560,706	19 21,380,854	9 10,095,515	468 678,220,020
合計		5,923 12,663,356,231	225 411,187,158	207 365,452,936	183 417,447,110	232 482,198,881	239 484,491,975	7,009 14,824,134,291

- (注) 1. 金額は各年度の理事会で決定したものであり、その後の変更については含んでいない。  
 2. 上段は件数を表す。  
 3. 下段は金額(円)を表す。  
 4. 計画助成金は他のプログラムと関連する助成、他の財団との共同助成への参加、緊急な対応を要する助成を示す。  
 5. 特別助成金他は10周年記念特別助成金、フェローシップ助成金、その他の助成金を示す。

# 会計報告

## 1. 貸借対照表

2008年3月31日現在

借方科目	金額(円)	貸方科目	金額(円)
(資産の部)		(負債の部)	
現金・預金	264,432,222	未払費用	7,153,299
有価証券	12,429,856	未払金	254,647,113
前払金	4,560,440	預り金	1,663,825
立替金	834,159	賞与引当金	17,014,160
仮払金	253,420	退職給付引当金	59,131,825
未収金	136,730,421		
		(正味財産の部)	
基本財産	25,429,832,200	正味財産	40,989,474,203
特定資産	15,429,438,025	(うち基本財産への充当額)	(22,429,832,200)
固定資産	50,573,682	(うち特定資産への充当額)	(15,370,306,200)
合計	41,329,084,425	合計	41,329,084,425

# 会計報告

## 2. 正味財産増減計算書

自 2007年4月1日 至 2008年3月31日

項目	金額(円)
( 経常増減の部 )	
財産運用益	732,231,207
財産評価益	▲ 407,828,400
受取寄付金	5,310,000,000
雑収益	28,310,850
経常収益計 ( A )	5,662,713,657
事業費	668,604,415
管理費	177,318,503
経常費用計 ( B )	845,922,918
当期経常増減額 ( C ) = ( A ) - ( B )	4,816,790,739
( 経常外増減の部 )	
退職給付引当金取崩益	0
経常外収益計 ( D )	0
固定資産除去損	12,772
経常外費用計 ( E )	12,772
当期外経常増減額 ( F ) = ( D ) - ( E )	▲ 12,772
当期一般正味財産増減額 ( G ) = ( C ) + ( F )	4,816,777,967
一般正味財産期首残高 ( H )	33,172,696,236
一般正味財産期末残高 ( I ) = ( G ) + ( H )	37,989,474,203
( 指定正味財産増減の部 )	
指定正味財産期末残高 ( J )	3,000,000,000
正味財産期末残高 ( K ) = ( I ) + ( J )	40,989,474,203

## 会計報告

### 3. 財産推移表

年度末	基本財産 (円)	運用財産 (円) *	正味財産計(円)
1974(昭和49)年度	3,000,000,000	133,057,559	3,133,057,559
1975(昭和50)年度	3,000,000,000	2,157,688,541	5,157,688,541
1976(昭和51)年度	3,000,000,000	3,186,517,747	6,186,517,747
1977(昭和52)年度	3,000,000,000	5,287,322,930	8,287,322,930
1978(昭和53)年度	3,000,000,000	7,399,047,725	10,399,047,725
1979(昭和54)年度	3,000,000,000	7,861,285,758	10,861,285,758
1980(昭和55)年度	7,000,000,000	4,003,621,400	11,003,621,400
1981(昭和56)年度	7,000,000,000	4,149,064,517	11,149,064,517
1982(昭和57)年度	7,000,000,000	4,287,154,437	11,287,154,437
1983(昭和58)年度	7,000,000,000	4,516,076,037	11,516,076,037
1984(昭和59)年度	7,000,000,000	4,657,945,551	11,657,945,551
1985(昭和60)年度	7,000,000,000	4,790,109,445	11,790,109,445
1986(昭和61)年度	7,000,000,000	4,895,989,935	11,895,989,935
1987(昭和62)年度	7,000,000,000	4,897,677,802	11,897,677,802
1988(昭和63)年度	7,000,000,000	4,638,898,571	11,638,898,571
1989(平成元)年度	7,000,000,000	4,675,999,340	11,675,999,340
1990(平成2)年度	7,000,000,000	4,707,768,117	11,707,768,117
1991(平成3)年度	7,000,000,000	4,705,697,939	11,705,697,939
1992(平成4)年度	7,000,000,000	4,593,449,759	11,593,449,759
1993(平成5)年度	7,000,000,000	4,543,287,609	11,543,287,609
1994(平成6)年度	7,000,000,000	4,492,182,175	11,492,182,175
1995(平成7)年度	7,000,000,000	4,505,449,966	11,505,449,966
1996(平成8)年度	7,000,000,000	9,572,944,480	16,572,944,480
1997(平成9)年度	12,000,000,000	9,641,774,178	21,641,774,178
1998(平成10)年度	17,000,000,000	9,486,314,837	26,486,314,837
1999(平成11)年度	20,000,000,000	11,496,321,907	31,496,321,907
2000(平成12)年度	20,000,000,000	11,259,353,528	31,259,353,528
2001(平成13)年度	20,000,000,000	9,734,386,335	29,734,386,335
2002(平成14)年度	20,000,000,000	9,546,555,972	29,546,555,972
2003(平成15)年度	20,000,000,000	9,434,672,015	29,434,672,015
2004(平成16)年度	20,000,000,000	9,721,860,737	29,721,860,737
2005(平成17)年度	20,000,000,000	9,543,377,435	29,543,377,435
2006(平成18)年度	25,144,641,800	11,028,054,436	36,172,696,236
2007(平成19)年度	25,429,832,200	15,559,642,003	40,989,474,203

★ 運用財産は、研究助成事業基金、固定資産および次期繰越収支差額の合計金額

# 会計報告

## 4. 助成金変更及び返納一覧

自 2007年4月1日 至 2008年3月31日

助成番号	助成代表者・団体名 助成金種別 事由	助成決定日	上段：決定金額(円)		
			中段：変更及び返納金(円)	下段：最終助成額(円)	
95-I-048	T. K. フォン 国際助成 助成打ち切り	1995. 9.26		2,847,950	
				590,450	
				2,257,500	
97-K-02	ブイバン N. 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	1997. 9.19		451,780	
				59,045	
				392,735	
97-K-03	ウティン B. 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	1997. 9.19		498,972	
				59,045	
				439,927	
97-K-04	スナンタ K. 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	1997. 9.19		716,815	
				59,045	
				657,770	
97-K-10	チャンウィット K. 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	1997. 9.19		1,157,152	
				661,304	
				495,848	
98-YI-01 ~ 46	インドネシア若手研究助成 46 件 インドネシア若手研究助成 助成打ち切り	1998. 9.22		3,571,662	
				832,771	
				2,738,891	
98-B-01	段々社 翻訳出版促進助成日本向け 助成金辞退	1998. 9.22		3,360,000	
				3,360,000	
				0	
98-B-03	平凡社 翻訳出版促進助成日本向け 翻訳枚数減	1998. 9.22		2,240,000	
				280,000	
				1,960,000	
98-K-01	ザムザミ 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	1998. 9.22		698,935	
				59,045	
				639,890	
98-K-07	グラ K. 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	1998. 9.22		1,205,410	
				59,045	
				1,146,365	
99-A-073	木原由美子 研究助成 助成打ち切り	1999. 9.17		1,700,000	
				570,000	
				1,130,000	
99-I-052	L. S. ザオ 国際助成 助成打ち切り	1999. 9.17		424,600	
				238,180	
				188,420	
99-K-09	F. タウフィック 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	1999. 9.17		468,285	
				59,045	
				409,240	
99-K-10	F. タウフィック 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	1999. 9.17		406,160	
				59,045	
				347,115	
99-K-11	F. タウフィック 翻訳出版促進助成アジア相互間 助成打ち切り	1999. 9.17		365,265	
				59,045	
				306,220	
D06-N-178	ハラ ファタ アジア隣人ネットワーク助成 助成打ち切り	2006. 9.20		3,000,000	
				3,000,000	
				0	
D06-P-004	林 亜夫 計画助成 助成金残	2006. 6.14		3,400,000	
				1,675,517	
				1,724,483	
D07-S-004	サンティ・ラマニエシルバ・ジャヤティラカ 成果発表助成 助成辞退	2008. 3. 6		720,979	
				720,979	
				0	

## 2007年

4月1日	アジア隣人ネットワーク助成、研究助成公募開始
4月14日	2006(平成18)年度地域社会プログラム助成金贈呈式
4月16日	研究助成「評価・モニタ研究会」(第二回)
5月15日	トヨタ財団レポート No.104発行
5月21日	アジア隣人ネットワーク助成公募の受付締切(175件) 研究助成公募の受付締切(751件)
6月19日	第117回理事会 2006(平成18)年度事業報告書、収支計算書の承認 選考委員の選任 研究助成事業基金規程の改訂承認 成果発表助成、助成先報告 3件 アジア隣人ネットワーク助成・研究助成応募状況報告 総務省立入検査結果報告 第38回評議員会 2006(平成18)年度事業報告書、収支計算書の報告 研究助成事業基金規程改訂の報告 研究助成・アジア隣人ネットワーク助成応募状況報告 総務省立入検査結果報告
7月21日	アジア隣人ネットワークワークショップ
9月10日	第118回理事会 アジア隣人ネットワーク助成、助成先決定 39件 研究助成、助成先決定 70件 計画助成、助成先決定 6件 2007(平成19)収支変更予算の承認 成果発表助成、助成先報告 3件 助成金贈呈式・シンポジウムについて

	<p>第39回評議員会 2007(平成19)収支変更予算の報告 助成金贈呈式・シンポジウムについて</p>
10月1日	地域社会プログラム公募開始
10月19日	研究助成「評価・モニタ研究会」(第三回)
10月25日	2007(平成19)年度助成金贈呈式・シンポジウム 地域社会プログラムニュースレター (ジョイント) Vol.1発行
11月20日	地域社会プログラム公募の受付締切(649件)
12月14日	特定課題「助成金が活きたら」研究会
12月20日	2005-6(平成17-8)年度年次報告書(和文)発行
12月26日	特定課題「江南、嶺・湖南、瀬戸内」研究会

## 2008年

2月20日	2005-6(平成17-8)年度年次報告書(英文)発行
2月29日	トヨタ財団レポート No.105発行
3月6日	<p>第119回理事会 地域社会プログラム、助成先決定 90件 SEASREP、助成先決定 24件 計画助成、助成先決定 1件 2007(平成19)年度収支決算見込の説明・承認 2008(平成20)年度事業計画、収支予算の承認 公益法人制度改革への対応方針の承認 成果発表助成、助成先報告 3件 地域社会プログラム助成金贈呈式について</p> <p>第40回評議員会 2007(平成19)年度収支決算見込の報告 2008(平成20)年度事業計画、収支予算の報告 公益法人制度改革への対応方針について 地域社会プログラム助成金贈呈式について</p>
3月11日	2008年度アジア隣人ネットワークプログラム公募説明会
3月12日	2008年度研究助成プログラム公募説明会
3月21日	2008年度特定課題「海の東アジアが醸成する文化」公募説明会
3月25日	地域社会プログラムニュースレター (ジョイント) Vol.2発行
3月27日	映像ワークショップ

## 事務局 (2008年3月31日現在)

---

常務理事 ———— 加藤広樹

事務局長 ———— 佐々木敬介

プログラム部門 — 姫本由美子 [チーフ・プログラム・オフィサー]

本多史朗 [チーフ・プログラム・オフィサー]

田中恭一 [シニア・プログラム・オフィサー]

川崎恵津子 [プログラム・オフィサー]

大庭竜太 [アシスタント・プログラム・オフィサー]

加賀道 [アシスタント・プログラム・オフィサー]

喜田亮子 [アシスタント・プログラム・オフィサー]

楠田健太 [アシスタント・プログラム・オフィサー]

権修珍 [アシスタント・プログラム・オフィサー]

石井恵子 [プログラム・サポーター・スタッフ]

新出洋子 [プログラム・サポーター・スタッフ]

村井美奈 [プログラム・サポーター・スタッフ]

渡辺元 [シニア・フェロー]

総務部門 ———— 佐々木敬介 [総務部長・兼務]

成田真澄 [課長代理]

川島治彦 [主任]

土方かほる [主任]

## 2007(平成19)年度年次報告

---

発行者 ———— 財団法人トヨタ財団

〒163-0437 東京都新宿区西新宿 2-1-1

新宿三井ビル 37 階・私書箱 236

[TEL] 03-3344-1701

[FAX] 03-3342-6911

[URL] <http://www.toyotafound.or.jp/>

発行日 ———— 2008年11月28日

デザイン ———— エディション・ヌース

印刷 ———— 文唱堂印刷株式会社